

タイ王国  
労災リハビリテーションセンター  
計画打合せ調査団報告書

平成2年2月

国際協力事業団  
社会開発協力部

JICA LIBRARY



1083732[6]

21354

タイ王国  
労災リハビリテーションセンター  
計画打合せ調査団報告書

平成2年2月

国際協力事業団  
社会開発協力部

国際協力事業団

21354

## 序 文

タイ王国では工業化の進展に伴い、製造業を中心に労働災害も増加の一途をたどっている。このため内務省労働局は被災労働者対策として、1974年労災補償基金制度を創設、さらに被災労働者の職場復帰を促進させるため、これら被災労働者に対する職業リハビリテーションサービスの提供を主な目的とする労災リハビリテーションセンターの設立を計画し、1982年10月わが国に対し、無償資金協力およびプロジェクト方式技術協力を要請した。

わが国は数次にわたり調査団を現地へ派遣し、タイ側関係者と協議を重ねた結果、1983年9月に10.9億円をもって無償資金協力による本件センターを設立することに合意するとともに、プロジェクト方式技術協力に係る討議議事録(R/D)も5年間の協力期間の予定で1984年2月23日に署名された。

1985年4月のセンター開所とともに順調に技術協力活動が展開されてきたが、その後、入所生のほとんどが医療リハビリテーションを必要としている状況から、1988年10月に派遣したエバリュエーション調査団とタイ側関係者との協議結果をふまえ、同分野の強化を中心に1991年3月31日までR/Dによる協力期間を延長することとした。

今般、協力延長期間2年目を迎え、本件プロジェクトの実施状況調査およびタイ側関係者と問題点の協議を行うため、中部労災病院リハビリテーション診療科部長 中島昭夫氏を団長とする計画打合せ調査団を派遣した。

本報告書は同調査団の調査結果をまとめたものである。

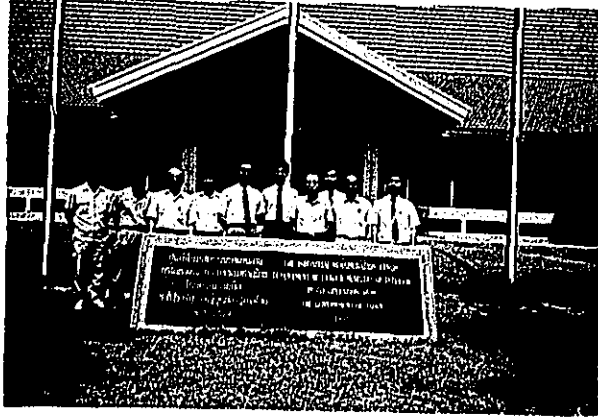
最後に、本調査団の派遣にご協力いただいた外務省、労働省、雇用促進事業団、労働福祉事業団ならびに現地での調査活動にご支援を賜った在タイ王国日本大使館および専門家チームの方々に深甚なる謝意を表する次第である。

平成2年2月

国際協力事業団

社会開発協力部長

小 泉 純 作



IRCにて  
左より

小阪専門家, 福井専門家, 北島調整員,  
中澤専門家, 佐々木団員, 那須団員,  
中島団長, 大川団員, 佐久間リーダー,  
小方団員

DOL 局長表敬



スクリーニング委員会による  
ミニッツ案の承認

ミニッツ署名  
(SIRI 局長および中島団長)



## 目 次

序 文  
写 真  
目 次

1. 計画打合せ調査団の派遣 .....	1
1-1 調査団派遣目的および調査項目 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	1
1-3 調査日程 .....	2
1-4 主要面談者 .....	3
2. 主要協議内容 .....	5
3. ミニッツ .....	9
4. プロジェクト実施現状調査 .....	15
4-1 職業リハビリテーション分野 .....	15
4-2 医療リハビリテーション分野 .....	16
《付属資料》 .....	21
1. 医療リハビリテーション分野治療実績 .....	23
2. 1990年度義肢装具ジョイントワークショップ日本側開催案 .....	27
3. センター入所生の推移 .....	29
4. プロジェクト案内 .....	31
5. タイ側提出資料 .....	43

## 1. 計画打合せ調査団の派遣

### 1-1 調査団派遣目的および調査項目

#### (1) 調査団派遣目的

プロジェクト実施体制および実施の現状について調査を行い、問題点を整理し、専門家チームおよびタイ側関係者との協議を通じてその解決をはかる。また、今後の日本側投入計画についても検討を行う。

#### (2) 調査項目

##### 1) プロジェクト実施現状調査

###### ① 職業準備および職業訓練各コース実施状況

i) 小型エンジンコースおよび冷凍空調コースの実施状況

ii) 労災者のニーズに適合したカリキュラムの開発

###### ② 医療リハビリテーションの実施状況

i) 医療リハビリテーションに対するニーズの増大

ii) 義肢装具の開発

###### ③ 施設の狭隘化

##### 2) 日本側投入計画の検討

###### ① 専門家派遣計画

###### ② 研修員受入計画

###### ③ 機材供与計画

### 1-2 調査団の構成

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| (1) 中島 昭夫 (総括及び医療リハビリテーション) | 労働福祉事業団中部労災病院リハビリテーション診療科部長 |
| (2) 佐々木勝也 (職業準備)            | 労働省職業安定局障害者雇用対策課課長補佐        |
| (3) 大川 祥三 (職業訓練)            | 雇用促進事業団埼玉技能開発センター開発援助課課長    |
| (4) 小方 靖 (訓練計画)             | 労働省大臣官房国際労働課協力交流第二係長        |
| (5) 那須 隆一 (協力企画)            | 国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第2課職員   |



1-3 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	2/11	日	東京 $\xrightarrow{\text{CX-501}}$ 香港 $\xrightarrow{\text{CX-703}}$ バンコク	
2	12	月	(午前) 労災リハビリテーションセンター (IRC) (午後) 内務省労働局(DOL), 日本大使館および JICA 事務所	(午前) IRC 視察および専門家チームとの全体会議 (午後) DOL 局長および日本大使館・JICA 事務所長表敬
3	13	火	IRC	各専門家から技術移転状況聴取, および問題点の協議
4	14	水	IRC	(午前) DOL・IRC スタッフおよび専門家チームとのプロジェクト運営に係る問題点の協議 (午後) ミニッツ案協議
5	15	木	LANDMARK HOTEL	専門家チームとの今後の日本側投入計画の検討およびミニッツタイプ作業
6	16	金	(午前) DOL (午後) JICA 事務所および LANDMARK HOTEL	(午前) スクリーニング委員会によるミニッツ案の承認 (午後) JICA 事務所へ報告およびミニッツ署名交換
7	17	土		資料整理および団内打合せ
8	18	日	バンコク $\xrightarrow{\text{CX-752}}$ 香港 $\xrightarrow{\text{CX-500}}$ 東京	

1-4 主要面談者

氏 名	職 位
<内務省労働局>	
Mr. Siri KEIWALINSRIT	内務省労働局局長
Ms. Amporn JUNENANOND	内務省労働局次長
Ms. Yanee PRASERTPAN	内務省労働局労災補償基金部部長
Mr. Akrapol VANAPUTI	内務省労働局労災補償基金部部長代理
Ms. Areeya POJVITHEE	内務省労働局国際労働課課長補佐
Ms. Supranee PUANGPAKDI	内務省労働局国際労働課労働事務官
<技術経済協力局>	
Ms. Ratana CHANTHANAKORN	技術経済協力局プロジェクト担当官
<労災リハビリテーションセンター>	
Ms. Doungkamol CHANGRIEN	労災リハビリテーションセンター所長
Ms. Kanchana NOIPRASERT	労災リハビリテーションセンター管理課課長
Dr. Suradej WALEEITTHIKUL	労災リハビリテーションセンター医療リハビリテーション課課長
Ms. Sumitra IMCHAI	労災リハビリテーションセンター職業評価・指導課課長補佐
Mr. Damrongsak PRAJONGPUN	労災リハビリテーションセンター職業準備課課長
Mr. Surachai DARBAVASU	労災リハビリテーションセンター職業訓練課課長
Ms. Suchada CHEECHAROEN	労災リハビリテーションセンター調査研究企画課課長補佐
Mrs. Patraporn PAKKARN	労災リハビリテーションセンター医療リハビリテーション課職員
<日本大使館>	
井原 勝 介	一等書記官
<JICA 事務所>	
齊藤 勉	所 長
師岡 俊夫	職 員
<専門家チーム>	
佐久間 昭 明	チーフアドバイザー
北 島 隆 雄	業務調整
中 澤 一 夫	職業リハビリテーション専門家
福 井 信 佳	作業療法専門家
山 岸 龍 生	冷凍空調専門家
小 阪 憲 次	小型エンジン専門家



## 2. 主要協議内容

1988年10月に本プロジェクトに係るエバリュエーション調査団が派遣され、タイ側との協議の結果、概略以下の通り結論付けられた。

- (1) 職業評価および職業指導分野については、技術移転はほぼ完了したと考えられるので、この分野の協力は当初 R/D 協力期間終了時（1989年2月22日）をもって終了する。
- (2) 職業準備、職業訓練および医療リハビリテーション分野については、ある程度の技術移転が終了し、相当程度の成果が上がっているものの、実際にプロジェクトを運営していく中でタイ側から様々な要請が上がってきており、これらに対する技術移転は R/D 協力期間終了時までには完了するのは困難なので、継続協力が必要と考えられる。
- (3) 協力期間の延長については、技術移転を効果的かつ円滑に行うため、1991年3月31日までの2年間強とする。

今回の計画打合せ調査団は、この評価調査団の協議結果に基づき、本プロジェクトの延長協力後の運営状況を調査し、延長協力の進捗状況を視察することによってその効果を把握するとともに、今後の協力の進め方について協議することを目的として派遣された。

係る一連の調査および協議における総括的な概略は以下の通りである。

### (1) カウンターパートへの技術移転状況について

協力が延長された職業準備、職業訓練および医療リハビリテーションの各分野において、カウンターパートへの技術移転は概ね順調に達成されつつあると考えられるが、各分野において以下の課題が指摘された。

#### 1) 職業リハビリテーション分野

職業準備、職業訓練とも技術移転は予定通り進捗しており、カリキュラムについてもほぼカウンターパート自身で作成できる状況にあるが、障害者のニーズに合ったカリキュラムの開発については引き続き協力を行う必要がある。

また、冷凍空調コースについては本年4月を目処にコースを開設し、技術移転を行っていくこととする。

さらに、来年度も引き続き専門家の派遣、カウンターパート研修、機材供与によって技術移転を行うこととする。

具体的には正式な要請の内容を検討した上で対処することとするが、現時点でのタイ側の希望は以下の通りである。

#### ① 短期専門家の派遣

- i) 小型エンジン
- ii) 冷凍空調
- iii) 福祉工学（機械系）

② カウンターパート研修

- i) 職業準備（計画調整）
- ii) 職業訓練（小型エンジン）
- iii) 統計およびコンピューター
- iv) 労災補償行政および職業紹介行政
- v) 職業準備（コンピューターおよび事務）

2) 医療リハビリテーション分野

技術移転は概ね順調に達成されつつあるが、タイ国の実情に照らした義肢装具の開発という面では未だ目標に達しているとは言えない状況にある。

また、新規に配置された3人のカウンターパートについては、今後技術移転を進めていく必要がある。

さらに、労災セミナー (seminars on evaluation of permanent impairment) および義肢装具ワークショップ (the Seminar and the Joint Workshop on improvement of the technique of making prosthesis and orthosis) の開催については予算の枠の中で可能な限り支援することとする。

なお、来年度も引き続き専門家の派遣、カウンターパート研修、機材供与によって技術移転を行うこととする。

具体的には正式な要請の内容を検討した上で対処することとするが、現時点でのタイ側の希望は以下の通りである。

① 短期専門家の派遣

- i) 医療（調整）
- ii) 医療（義肢）
- iii) 医療（装具）
- iv) 義肢装具3名
- v) 理学療法

② カウンターパート研修

- i) 義肢装具
- ii) 作業療法
- iii) 理学療法

ただし、カウンターパート研修については年間研修員受入れ枠を考慮し、さらに

個々の要請を検討した上で対処することとするが、現在、来年度の本プロジェクトにおけるカウンターパートの受入れ枠は6名であることをタイ側に伝えおいた。

なお、研修については、可能な限り集団研修コースを活用する等、タイ技術経済協力省 (DTEC) および日本大使館と協議するよう提案しおいた。

## (2) スペースおよびレイアウトの問題について

従来から、医療リハビリテーションおよび職業訓練コースの拡充等によって施設が手狭になってきており、1988年10月エバリュエーション調査団がレイアウトの変更等により対処するよう提案しおいた経緯がある。

今回の調査においては、現在までのタイ側のレイアウト変更における努力を評価するも、医療リハビリテーション関係においては、OT室・義肢工房、スタッフルーム等が狭小化しており、また、職業訓練関係においては小型エンジンコースと板金・溶接コースが隣接して運営されており、効果的な活動および安全性の見地からも再度レイアウト変更等により対処する必要がある点指摘した。

これに対しタイ側より、建物の増設等によって解決したいとして日本側の協力を打診してきたので、日本側においては本プロジェクトにおいては建物にかかる予算について措置されていない旨説明するとともに、1つの考え方として現在の職業訓練コースの改変、各部門の倉庫の共同利用等も含めて有効なスペースの活用を検討する等、医療リハビリテーションおよび職業リハビリテーション全体の見地からレイアウトを再考する必要がある旨提案しおいた。

## (3) その他

タイ側より、本プロジェクトの延長協力期間後の日本側の協力について打診があったところ、日本側としては、係る件については本プロジェクトの延長期間終了前に派遣を予定 (1990年12月頃) しているエバリュエーション調査団との協議において検討されるべき問題ではあるがと前置きした上で、フォローアップ協力あるいはアフターケア協力という形で専門家の派遣、カウンターパートの研修、機材供与等の継続協力が可能である旨回答しおいた。

また、タイ側より、労災に係る医療リハビリテーション分野について新たなプロジェクト方式による技術協力の打診があったので、日本側としては、本プロジェクトについては予定通り延長期間終了時をもって協力を完了することとし、係る要請はタイ側においてタイ技術経済協力省 (DTEC) とも十分協議の上、外交ルートを通じて要請いただければ検討する旨回答しおいた (本件にかかる SIRI 労働局長の発言メモは以下の通りである)。

Speech by Mr. Sird Keiwalinsrit, Director-General of Department of Labour

Mr. Akio Nakajima, Director, Division of Rehabilitation Medicine,  
Chebu Rosai Hospital and the Mutual Consultation  
Team,

Ladies and Gentlemen,

We are here today to witness the minute signing ceremony on the follow up of the implementation of the IRC project. This Document is an undertaking between the Mutual Consultation Mission led by Mr. Nakajima, who represents the Government of Japan, and myself, on behalf of the Department of Labour, Ministry of Interior, of the Royal Thai Government which we will jointly fulfil to make the project a success.

Although the IRC project is coming to an end in 1991, we hope that the Government of Japan will continue to extend cooperation, particularly, for the establishment of the Industrial Medical Rehabilitation Centre.

On this occasion, I would like to express our profound appreciation to the Government of Japan for the valuable assistance rendered to this project. I am pleased to learn that, due to the capable guidance of the Japanese experts, the project has achieved its goals. Our thanks also go to members of the Team and the Thai officials for their devoted efforts, which have made the signing of the Minute today possible.

Thank you.

3. ミニッツ

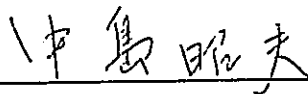
THE MINUTES OF DISCUSSIONS  
BETWEEN  
THE JAPANESE MUTUAL CONSULTATION TEAM  
AND  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND  
ON  
THE INDUSTRIAL REHABILITATION CENTER PROJECT

The Japanese Mutual Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") , organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by Dr. Akio NAKAJIMA, visited the Kingdom of Thailand from February 11 to 18, 1990, for the purpose of understanding the progress and achievement concerning the implementation of the Industrial Rehabilitation Center Project (hereinafter referred to as "the Project") and reviewing the technical cooperation with the authorities concerned of the Kingdom of Thailand (hereinafter referred to as "the Thai authorities").

During its stay in the Kingdom of Thailand, the Team exchanged views and had series of discussions with the Thai authorities.

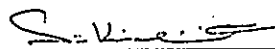
As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Bangkok, February 16, 1990



AKIO NAKAJIMA

Leader,  
Mutual Consultation Team,  
Japan International Cooperation  
Agency



SIRI KEIWALINSRIT

Director-General,  
Department of Labour,  
Ministry of Interior,  
The Kingdom of Thailand



THE ATTACHED DOCUMENT.

1. Both the Thai authorities and the Team agreed that the Project, in general, has been successfully implemented in accordance with the Record of Discussions signed on February 23, 1984 and the Minutes of Discussions signed on October 14, 1988.
2. For further progress of the Project, both sides came to the common understanding on the following matters :
  - (1) To make continuous effort for the development of curricula in work preparation program and vocational training program suited for the needs of disabled person
  - (2) To provide the layout of rooms from the point of view of the effective activities and the safety
  - (3) To hold seminars on the evaluation of permanent impairment
  - (4) To make further effort for the development of fabrication of prosthesis and orthosis, and to hold the Seminar and the Joint Workshop on improvement of the technique of making prosthesis and orthosis
  - (5) To dispatch some Japanese experts for technical transfer
  - (6) To accept appropriate number of the Thai counterpart personnel for training in Japan
  - (7) To supply spare parts and equipment by the Japanese side
  - (8) To give continuous budgetary support for smooth implementation of the Project by the Thai side
3. Both sides expressed their strong will to continue to make an effort for smooth implementation of the Project.

A.N.

S.

PARTICIPANTS ON THE THAI SIDE

1. Mr. Siri KEIWALINSRIT Director-General, DOL
2. Mrs. Amporn JUNENANOND Deputy Director-General, DOL
3. Mr. Akrapol VANAPUTI Acting Director of the WCF, DOL
4. Ms. Ratana CHANTHANAKORN Project Officer, DTEC
5. Ms. Areeya ROJVITHEE Acting Director, International Labour Affairs Division, DOL
6. Ms. Doungkamol CHANGRIEN Director of IRC, DOL
7. Mrs. Supraneer PUANGPAKDI Senior Labour Officer, International Labour Affairs Division, DOL
8. Mrs. Kanchana NOIPRASERT Chief of General Administration Section IRC, DOL
9. Dr. Suradej WALEEITTHIKUL Chief of Medical Rehabilitation Section IRC, DOL
10. Mrs. Sumitra IMCHAI For Chief of Vocational Evaluation & Guidance Section IRC, DOL
11. Mr. Damrongsak PRAJONGPUN Chief of Work Preparation Section IRC, DOL
12. Mr. Surachai DARBAVASU Chief of Vocational Training Section IRC, DOL
13. Mrs. Suchada CHEECHAROEN For Chief of Research Planning & Studies Section IRC, DOL
14. Mrs. Pattraporn PAKKARN Staff of Medical Rehabilitation Section IRC, DOL

A. N.

2

PARTICIPANTS ON THE JAPANESE SIDE

Mission

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1. Dr. Akio NAKAJIMA<br>(Leader) | Director, Division of Rehabilitation<br>Medicine, Chubu Rosai Hospital   |
| 2. Mr. Katsuya SASAKI            | Deputy Director, Employment Measures<br>for the Disabled Division, Employment<br>Security Bureau, Ministry of Labour                                   |
| 3. Mr. Shozo OKAWA               | Manager of Development Assistance<br>Division, Saitama Skill Development<br>Center, Employment Promotion Corporation                                   |
| 4. Mr. Yasushi OGATA             | Chief of Second Technical Cooperation<br>and Exchange Section, International<br>Labour Affairs Division, Minister's<br>Secretariat, Ministry of Labour |
| 5. Mr. Ryuichi NASU              | Staff, Second Technical Cooperation<br>Division, Social Development Cooperation<br>Department, JICA  |

A.N.

S.

Embassy of Japan

Mr. Katsusuke IHARA

First Secretary

JICA Thailand Office

Mr. Toshio MOROOKA

Assistant Representative

Japanese Expert

1. Mr. Teruaki SAKUMA
2. Mr. Takao KITAJIMA
3. Mr. Kazuo NAKAZAWA
4. Mr. Nobuyoshi FUKUI
5. Mr. Tatsuo YAMAGISHI  
(Short-term)
6. Mr. Kenji KOSAKA  
(Short-term)

Chief Advisor

Coordinator

Vocational Rehabilitation

Occupational Therapy

Air-Conditioning and Refrigeration

Small-Engine

S.

A. N.



## 4. プロジェクト実施現状調査

### 4-1 職業リハビリテーション分野

#### (1) 職業リハビリテーション分野全般の実施状況

1) 職業準備においては、職場復帰のために必要な諸要件を身につけさせるための訓練を行っており、復職あるいは新規就職のために必要な実務に対応できる技能や職業人格向上を図るため、実践的作業場面を通じて個別カリキュラムによって指導している。

それらは主に障害の受容、不安の除去、作業能力の向上を目的としていて、具体的には下記のコースがほぼ順調に実施されている。

- ① 機 械
- ② 金 工
- ③ 木 工
- ④ 事 務
- ⑤ 電気組立
- ⑥ 手 芸

職業準備期間：各コースとも4カ月間

2) 職業訓練においては、職場復帰のために必要な技能・知識を身につけさせるための訓練が行われ、自営あるいは新規就職を目指す入所生を対象として、それに必要な技能および関連知識を付与することを目的として職業準備より派生させ、下記コースを実施している。

- ① 機 械
- ② 板 金
- ③ 溶 接
- ④ 木工・家具・工芸
- ⑤ 小型エンジン
- ⑥ 経理事務
- ⑦ タイピング・軽印刷
- ⑧ 電子および電気機器
- ⑨ 洋裁・縫製

職業訓練期間：職種により3～12カ月間

3) コースの再編整備につきとくにタイ側へ具体的なアドバイスは行わなかったが、職業準備および職業訓練のための施設が狭隘化してきているので、そのために施設のレ

レイアウトを再考する時に日本人専門家の意見をふまえた上、ニーズに合ったコースの再編も考慮すべきであると思われる。

## (2) 小型エンジンコースの実施状況および冷凍空調コースの開設準備状況

1) 小型エンジンコースについては、現在、軽度障害の入所生から受講希望が多く、タイ側も相当、当コースを重視している。訓練内容としては、小型エンジン等の構造理論をふまえた上でエンジンの修理等の実技が主体的に行われている。タイの実情から、自動二輪車の修理がこれからも主体となりつつあるが、農業機械修理技能の需要も多いと思われる。訓練機械については、整備用エンジン等が相当不足していると思われる。それとともに理論的な力をつける必要から、各種エンジンのカットモデル等の導入も必要であると思われる。訓練カリキュラムについては、日本人専門家の指導のもとに、これからはタイ側カウンターパート独自によりニーズに対応して作成が可能であろう。施設は非常に手狭で、安全面からもまた排気ガスおよび騒音等の衛生面からも、さらには屋外でのテント張りによる自動二輪整備訓練に見られるように、訓練効果の面からも早急なレイアウトの変更が必要であると思われる。

2) 冷凍空調コースについては、電気分野の1コースとして現在開設準備が進められているところである。供与機材の点検も終わり、短期専門家によるカウンターパートに対する技術移転も順調に行われていた。現在予定している施設のスペースは、現在設定しているカリキュラムの実施に相当であると思われる。将来のカリキュラム内容の拡大については、電気コース内でのレイアウトの変更等で対応できるものと思われる。現在の訓練カリキュラムは、業務用・家庭用空調機器の修理および取付実習を中心に作成されている。タイ側には4月を目処に開設を促した。

## (3) 事務関連コースの整備の必要性

今後の需要が増大すると思われる当コースについては、経理事務の簿記システムの開発が進められているが、その他に関しては全般的に訓練機材が古く（タイ文字のワープロソフト開発を含め）OA機器導入の必要がある。また、印刷コースについては、これを実施する上での供与機材が質・量ともに大幅に不足していて、コース実施はむずかしく、現状では事務分野の1つの分野として事務印刷機使用法の習得程度の位置づけにならざるを得ないと思われる。

## 4-2 医療リハビリテーション分野

### (1) 医療リハビリテーション分野の現状

過去数度にわたる調査団の報告書および専門家からの定期報告書に指摘されてきたように、タイ国における医療および医療リハビリテーションは総体的に見れば未発達の状態

態にあり、現在においても本プロジェクトを取り巻く医療環境は、センター開設当初と比べてほとんど変化が見られないと考えられる。

本センター入所生の大部分は適切な医療リハビリテーションを受けておらず、入所後医療リハビリテーションを必要としたものは開設以来全入所生の96%に達する。1989年度においてもこの傾向は変わらず、常時入所生の平均68%が医療リハビリテーションサービスを受けている状況である。また、初期治療の不適切なものも多く見られ、入所後外部医療機関において手術を主とする治療を受けたものは1989年度では80件に達しており、むしろ増加傾向が見られる。こうした傾向は、過去に職業リハビリテーション分野の発展を妨げる恐れがあると指摘されたところであるが、現在のタイ国の医療環境では、このような不十分な医療のままにおかれる被災労働者に対する救済手段が他になく、現段階では積極的に本センターに入所させ、医療から職業リハビリテーションへのコースに乗せることが唯一の方法と考えられる。しかし、こうした変則的な方法は職業リハビリテーション分野の発展に対して好ましいとは考えられず、将来的には何らかの対策が必要と考えられる。

こうした状況下で、当初全入所生の10%と予測された医療リハビリテーションの受療者は各部門ともに大幅に伸び、1989年度では理学療法部門で月間述べ数で571名、作業療法部門で587名、年間義肢製作本数40件、修理43件、装具・自助具製作74件に及び施設、スタッフともに不足の状態になっている。

スタッフについては1989年度に増員され、現在医師1名、PT3名、OT3名、義肢装具士2名、看護婦1名の計10名となり、一応対応できる体制となっているが、施設面では狭小となり、とくにOT室、義肢工房、スタッフルームが問題となっている（以上付属資料1. 参照）

## (2) 技術移転の状況

### 1) システム

医療リハビリテーションおよび義肢装具製作における指示系統、処方および評価についての様式・システムは、一応整備された。記録の保管についても確立している。

### 2) 医師

日本研修が終了したところであるが、第1段階の技術は習得したと考えられる。今後、本センター医療リハビリテーション分野の統率と指導が期待される。

### 3) 理学療法 (PT) および作業療法 (OT)

現在 PT 1 名が日本研修中である。日本研修を終了した中心スタッフへの技術移転は、ほぼ当初の目的を達しており、今後新規採用のPT, OT 各1名への技術移転が問題となる。タイ側は彼らに対する日本研修を希望している。



1990年度における PT の短期専門家派遣については、上記の観点から義肢装具ジョイントワークショップ開催時の1回とすることでタイ側の了解を得た。

#### 4) 義肢装具士

この分野の技術協力は、①日本の義肢製作技術の移転、②日本の技術によるタイの現在型の義肢製作の開発、③タイに適した新しい義肢の開発、の3段階で計画された。現在、第2の段階にあると考えられる。協力期間内に義肢装具ジョイントワークショップおよび短期専門家の派遣により第3段階に取りかけられることが目標となる。新任の義肢装具士の日本研修が優先課題と考えられる。

なお、1990年度における義肢装具ジョイントワークショップ開催後の義肢装具士短期専門家の派遣については、ジョイントワークショップの開催が9月にずれ込み、協力終了時までの時間的余裕が少なくなったため、ジョイントワークショップの開催時およびエバリュエーション調査団の訪タイ時に協議することとした。

また、義肢装具部門については第3段階の定着のために、協力期間終了後も何らかの形で技術協力の継続が望ましいと考えられ、エバリュエーション調査団訪タイ時に協議されることが望まれる。

### (3) 供与機材

#### 1) 供与機材

現在までに供与された機材は、一部の緊急用機材を除いて十分活用されている。医療リハビリテーション分野における機材としてはほぼ充実したものと考えられるが、今後義肢装具部門の技術協力が第3段階に入った場合に新しい機材の供与が必要になるものと考えられる。

#### 2) スペアパーツ

主として義肢装具の製作資材の補給が必要であると思われる。倉庫が狭いため資材管理が十分に行われておらず、早急に在庫調査の上、義肢装具ジョイントワークショップに必要な機材を含め携行機材等により対応する必要がある。また、義肢装具の資材については、技術協力が第2段階に入っているとの認識から、できる限り現地調達で対応できるようにすべきであると考えられる。なお、既に供与済みの骨格型の義肢については、日本より補修機材の供給が必要であるので、供与義肢の実体調査を依頼するとともに資材管理についてはタイ側に改善を要請した。

### (4) 施設

医療リハビリテーションの必要な入所者の増加と、それに伴うスタッフの増加により医療リハビリテーション分野においては著しく床面積の不足を生じている。とくに OT 部門、義肢装具部門、スタッフルームが著しい。差し当たり、医療リハビリテー

ション分野での倉庫の統合整理により剰余面積を作り出す問題についてタイ側と協議したが、センター全体としての部屋の配置検討が必要であると思われる。

(5) その他

1) 義肢装具ジョイントワークショップ

日本側の開催案（付属資料2.）を提示して、早急に検討の上具体案を日本側へ提示するよう要請した。

本件に係る短期専門家の派遣数については、一応医師2～3名、義肢装具士2名、PT 1名とするが、最終的にはタイ側案が出た時点で決定することとした。

2) 労災セミナー

本プロジェクトの有効な運営上医療関係者の理解と協力は大きな問題であり、このために過去3回労災基金補償制度、労災医療の運営、本センターについてのセミナーが行われたが、今後協力期間終了までに7回の開催が予定されている。

3) 労災医療センターの構想

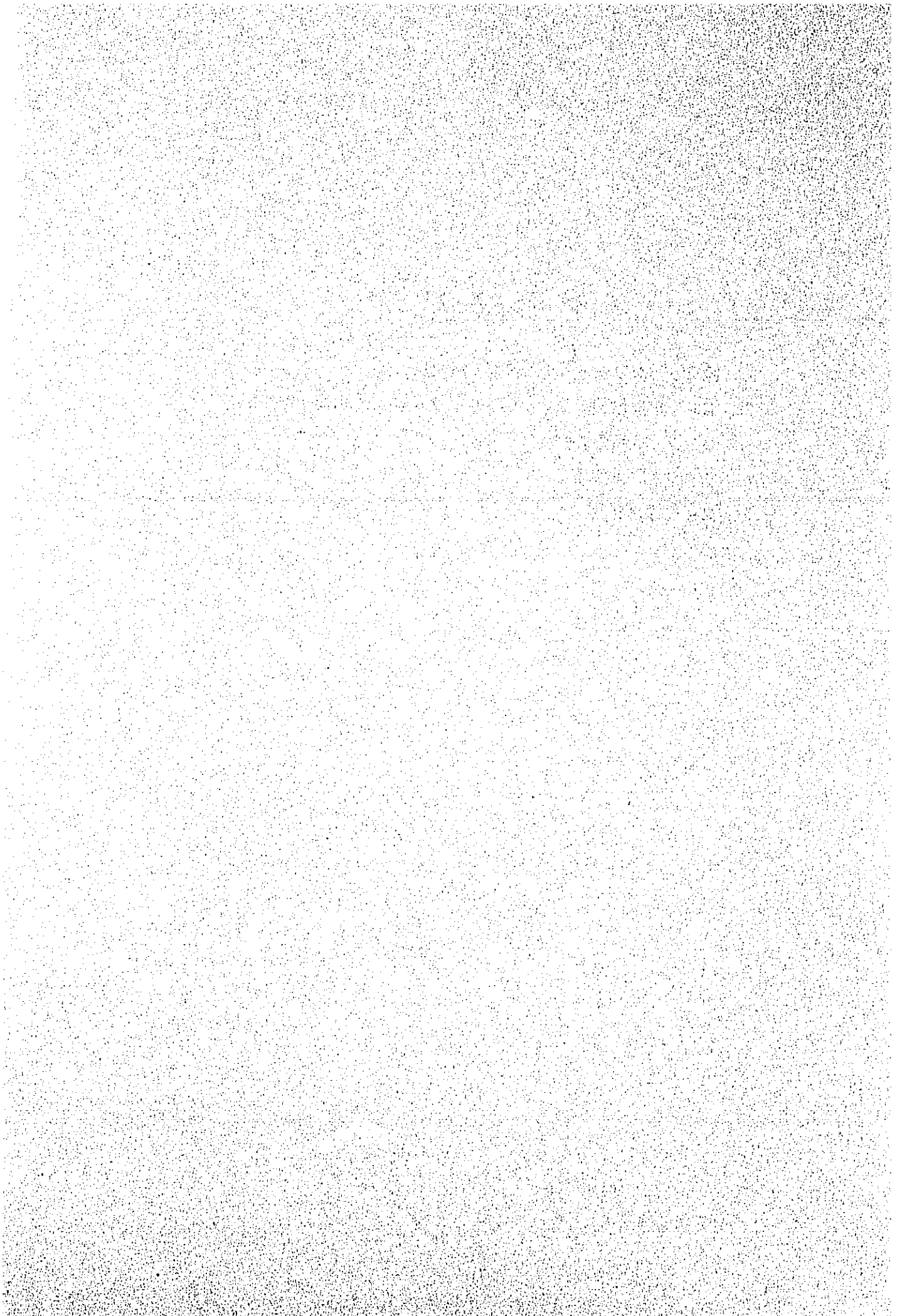
タイ側より本センターに継ぐ被災労働者救済のための施設として、医療を中心とする労災医療センターの設立計画について説明があった。

前述したように、現在本センターの医療リハビリテーション分野は当初計画を上回る被災労働者を扱わざるを得ない状況にあり、タイの医療環境のためそれを既存の医療システムに転嫁できない状態にある。労働局労災基金補償部(WCF)の資金により救済されるべき被災労働者がそれを有効に使用し得ない状態を改善し、本センターを効果的に運用するにはWCFが医療部門を持つことが必要であり、本構想は医療リハビリテーションを中心とする施設を作り、将来的にはこれを労働医学全体のための施設に発展させ、職業リハビリテーション施設と並行させたいとの構想である。



## 《 付 属 資 料 》

1. 医療リハビリテーション分野治療実績
2. 1990年度義肢装具ジョイントワークショップ日本側開催案
3. センター入所生の推移
4. プロジェクト案内
5. タイ側提出資料



## 1. 医療リハビリテーション分野治療実績

1989年6月までIRCに入所した512人についての調査

(1) 1回以上医療リハビリテーションを受けたことのあるもの	492人
PT サービスを受けたことのあるもの	443人
OT サービスを受けたことのあるもの	421人
医療リハビリテーションサービスのみを受けたもの	68人

### (2) 入所者の障害について

表1 片側の障害

	右	左	合計
手部の切断	4	0	4
前腕切断	21	14	35
上腕切断	13	8	21
肩離断	4	1	5
下腿切断	7	9	16
大腿切断	4	6	10
上肢の機能障害	204	108	312
下肢の機能障害	21	12	33
頭部外傷による片麻痺	2	3	5
	280	161	441

注) 上肢の機能障害の内訳は、手部(手指を含む)の骨折または一部の切断、挫減などおよそ9割が手部の機能障害である。

表2 複数の部位に障害のおよぶもの

両側の上肢に障害のおよぶもの	7
両側の下肢に障害のおよぶもの	4
両前腕切断	5
両上腕切断	2
両下腿切断	3
両大腿切断	2
三肢切断	3
両上下肢、体幹に障害のおよぶもの	13
体幹のみに障害を持つもの	13
対麻痺	1
目に障害を持つもの	8
不明	10
	71

表1 + 表2 = 512

昨年センター入所後、他の病院で受けた手術件数

1989年

JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JULY	AUG	SEP	OCT	NOV
11	8	5	3	4	13	8	0	13	5	10

昨年センター入所後、他の病院で受けた医療処置、検査件数 (X-P など)

1989年

JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JULY	AUG	SEP	OCT	NOV
12	10	14	1	17	11	16	22	11	26	25

・義肢装具の処方状況

本センターへの入所生の数は月により多少の変動があるが、医療リハビリテーションを必要とするケースは、9割近くに及んでいる。その中で切断者の数は最近では、比較的確保できているように思われる。

切断の入所生の中には、依然として義肢（義手）を持っていないケースが多く、入所後センターで製作せざるを得ない。一方、義手を持って入所してくるケースでは、安い材質を使用しているため破損しているもの、あるいはケーブルの取り付けに問題があるものなど何らかの処置が必要なケースが多くみられる。

なお、本センターで製作された義肢は、他院で製作された義肢よりも信頼度の高いものと言えるであろう。

・義肢の使用状況

義肢装具士によって製作された義肢は、PTまたはOTによりチェックされ、少なくとも、センター入所中は全例常時使用されている。

センター退所後の状況については未調査であるため、今後調査すべきであろう。



昨年1年間の医療リハビリテーション分野における治療件数

OT	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JULY	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
Activity therapy	664	762	781	365	375	471	415	680	543	565	753	759
Sensory re-education	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
Desensitization	53	53	41	11	33	44	36	24	54	76	105	123
Biofeedback	-	20	20	20	16	19	-	66	-	-	-	-
Splinting	9	3	9	4	3	4	9	7	12	9	6	12
Aid device	-	-	1	3	-	-	1	2	1	1	-	-
Pros. check out	5	32	-	5	-	-	-	2	5	3	5	-
Pros. training	75	83	50	5	-	-	-	30	42	35	74	5
Therapeutic ex.	664	762	781	365	375	471	415	680	538	565	753	759

PT

Ex. therapy	800	611	698	415	378	566	469	742	429	455	695	628
Electrical therapy	260	168	248	144	71	207	142	213	98	112	167	182
Hydrotherapy	307	294	519	299	241	358	284	311	219	250	258	187
Heat therapy	203	126	480	180	112	176	184	297	135	162	131	166
Gait training(Pros.)	76	33	35	-	-	-	27	-	-	17	37	11

義肢装具（数字は、本センターで製作された義肢の本数を示す。）

FINGER		2			2	1				3		
A/E	2	3	3	3	2	1	1	4			4	4
B/E	6		5	1	3	8	3	2	3	5	2	
A/K		1	2					2				
B/K		3					1	2	1			
合計	8	9	10	4	7	10	5	10	4	8	6	4

2. 1990年度義肢装具ジョイントワークショップ日本側開催案

The tentative plan  
for the seminar and workshop  
on prosthesis and orthosis

I. time; - August 1990.

II. outline of the schedule  
and dispatching Japanese experts; -

	7/23	7/30	8/6	8/13	8/20	8/27	9/3
	1st-w	2nd-w	3rd-w	4th-w	5th-w	6th-w	7th-w
	WS pre	WS ①	WS ②	WS ③	SH pre	SH①	SH②
Pr 1	_____						
Pr 2	_____						
PT	_____						
Dr 1	_____						
Dr 2	_____						

III. workshop

place; - IRC

1. the 1st workshop

purpose... training of L/E prosthesis  
fabrication

participants... 4~6

model... 2 L/E amputees

2. the 2nd workshop

purpose... training of L/E prosthesis  
fabrication

participants... 4~6

model... 2 L/E amputees

3. the 3rd workshop

purpose... training of U/E prosthesis  
fabrication

participants... 4~6

model... 2 U/E amputees

IV. the seminars

1. the 1st seminar

place... some place

content... lectures.

video presentation of U/E  
prosthesis fabrication.

video presentation of U/E

amputated tainee in IRC  
 demonstration of L/E  
 prosthesis fabrication.  
 demonstration of brace  
 fabrication (plastics)  
 demonstration of amputee  
 rehabilitation

1st D	lecture 1	lecture 2	lecture 3	lecture 4
2nd D	lecture 5	lecture 6	Demo(prost.	fabric & reha)
3rd D	lecture 7	lecture 8	Demo(brace	fabric.)

participants...20  
 model...2

- A/K and B/K amputees
- 2. the 2nd seminar
  - place...IRC
  - content...same to the 1st seminar
  - participants...20
  - model...2
    - A/K and B/K amputees
    - \*condition of the place
      - i. prosthesis workshop.
      - ii. prosthesist who can cwork.
      - iii. participants (transportation, climate and hotel)
      - iv. possibility of transportation of equipments.
      - v. model
- 3. topics of lectures
  - i. handsplint
  - ii. legbrace (plastic brace, functional brace and supporting brace)
  - iii. material for prosthesis and orthosis
  - iv. U/E prosthesis
  - v. L/E prosthesis
  - vi. orthopeadic shoe
  - vii. amputation and postoperative manegement

### 3. センター入所生の推移

Table of IRC Achievement

NO.	Activities	1985	1986	1987	1988	1989	Total
1.	Interview	179	140	228	517	309	1,373
2.	Admit	53	83	120	192	159	607
3.	Finish	13	62	108	132	153	466
4.	Previous employer	10	33	70	83	89	284
5.	New employer	2	18	10	7	22	59
6.	Self-employment	1	11	28	42	42	123
7.	Drop out	3	8	12	12	11	46

Achievement of IRC (1989)

Vocational Rehabilitation	Admit	Finish	Employment Condition			1990:1:25
			Previous Employer	New Employer	Self-employment	
<u>Work Preparation</u>						
1. Machine work Course	10	4	4	-	-	8
2. Metal work Course	24	21	16	1	4	11
3. Wood work Course	9	9	7	1	1	3
4. Assembly work Course	51	21	16	1	4	19
5. Clerical work Course	31	29	24	1	4	13
6. Handicraft Course	28	19	14	3	2	-
7. Home Program, Other	2	2	2	3	2	-
<b>Total</b>	<b>155</b>	<b>105</b>	<b>83</b>	<b>7</b>	<b>15</b>	<b>54</b>
<u>Vocational Training</u>						
1. Machine Course	4	3	-	2	1	-
2. Sheet metal & painting Course	2	-	-	-	-	-
3. Welding Course	3	3	1	2	-	-
4. Furniture Course	1	-	-	-	-	-
5. Wood craft Course	-	-	-	-	-	-
6. Small engine Course	12	10	-	2	8	8
7. Clerical work Course	-	-	-	-	-	15
8. Typing Course	-	-	-	-	-	-
9. Light printing Course	-	-	-	-	-	-
10. Electronics Course	1	6	-	1	5	-
11. Home electric Course	6	9	-	2	7	4
12. Dress-making Course	8	8	2	4	2	3
13. Industrial sewing Course	8	9	3	2	4	-
<b>Total</b>	<b>45</b>	<b>48</b>	<b>6</b>	<b>15</b>	<b>27</b>	<b>30</b>
<b>Grand total</b>	<b>200</b>	<b>153</b>	<b>89</b>	<b>22</b>	<b>42</b>	<b>84</b>

4. プロジェクト案内

労災リハビリテーション・センター

(Industrial Rehabilitation Center)

\*\*\* I R C \*\*\*

プロジェクト案内

1990年 1月

## 1. プロジェクト設立の背景と経緯

タイ国では、工業化の進展にともない労働災害の件数が増加し、このため内務省労働局は被災労働者対策として、1974年労災補償基金制度（Workmen Compensation Fund : WCF）を発足させました。労働局はさらに、被災労働者の職場復帰を促進させるため、これら被災労働者に対する職業リハビリテーション・サービスの提供を主な目的とするリハビリテーション・センターの設置を計画し、1982年10月、日本政府に対して無償資金協力及びプロジェクト方式技術協力を要請してきました。この要請を受けて国際協力事業団は、無償資金協力実施のための調査として建設計画事前調査団（1982年11月）、基本設計調査団（1983年3月5-6月）、ドラフト・レポート説明チーム（1983年10-11月）を、またこれと併せてプロジェクト方式技術協力実施のための調査として事前調査団（1983年3月）、長期調査員チーム（1983年10-11月）、実施協議チーム（1984年2月）をそれぞれ派遣し、タイ側の要請内容の確認と協力の可能性等を調査しました。

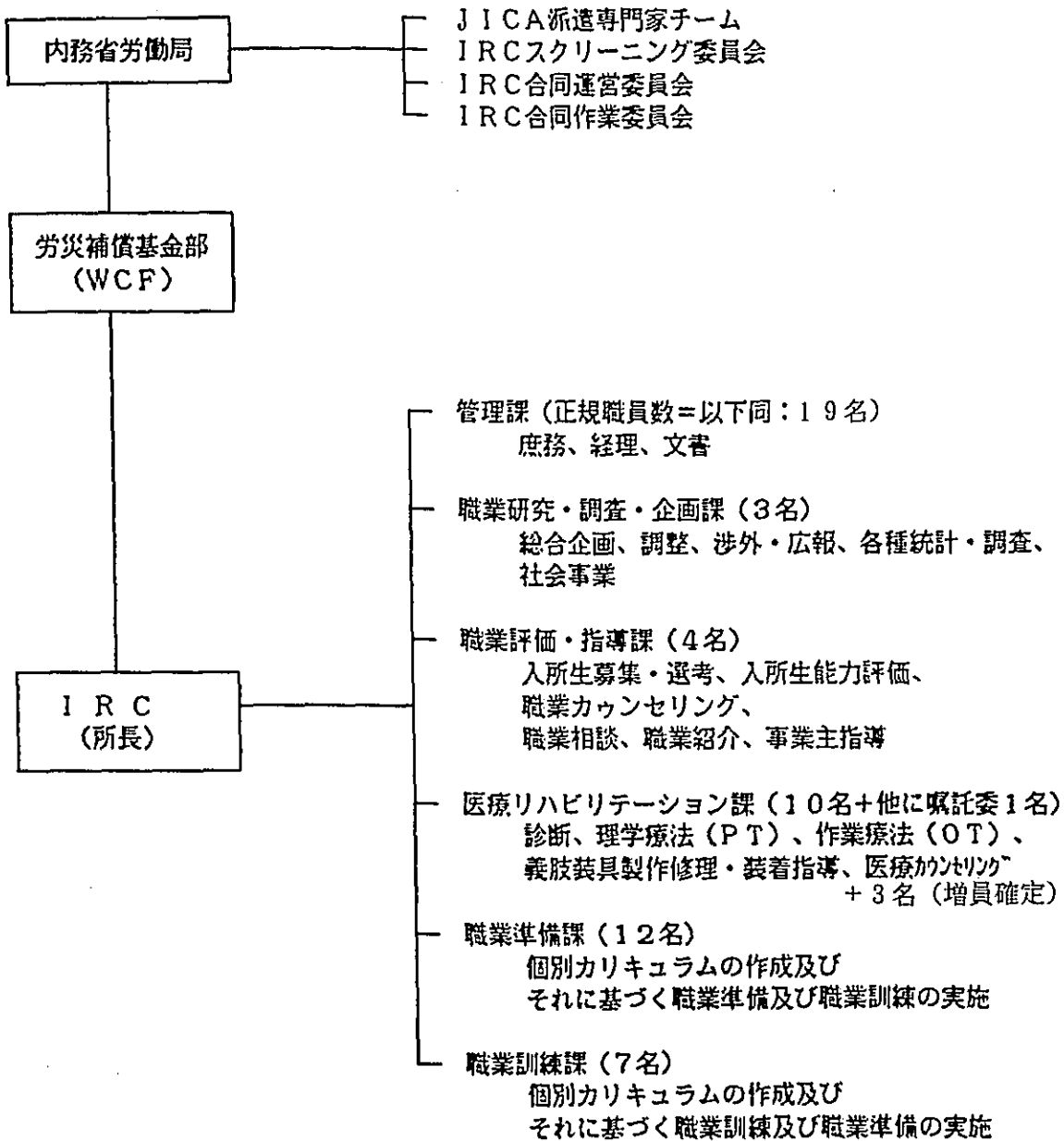
その結果、1983年9月に無償資金協力実施に関する交換公文が署名され、無償資金協力による建物建設及び機材供与が実施される運びとなり、一方1984年2月には実施協議チームとタイ側との間で、プロジェクト方式技術協力実施に関する討議議事録（R/D）が署名され、ここに以後5年間にわたりIRCプロジェクトが実施されることになりました。センター建物の建設は1984年4月に開始され、1985年3月に施工、この時期に合わせて無償資金協力に基づく機材供与が実施されました。またR/Dに基づき1984年10月と11月の2回に分けて長期専門家合計7名が派遣され、プロジェクト方式の技術協力が本格的にスタートしました。

その後、タイ国の事情に合うよう修正が加えられて医療リハビリテーション及び職業訓練に重点が向けられ、巡回指導調査団（1987年11月～12月）、評価調査団（1988年10月）との協議を経て、医療リハビリテーション及び職業リハビリテーションの各部門の一部について、1991年3月31日までプロジェクト技術協力を延長して実施することになりました。

## 2. プロジェクトの目的

IRCは、労働災害による身体障害者に対して、医療リハビリテーション及び職業リハビリテーションのサービスを提供し、これら被災労働者の職業自立を促進することを目的としています。そして、これら被災労働者雇用対策の充実及び労働者の福祉の向上を計ろうとするものであります。

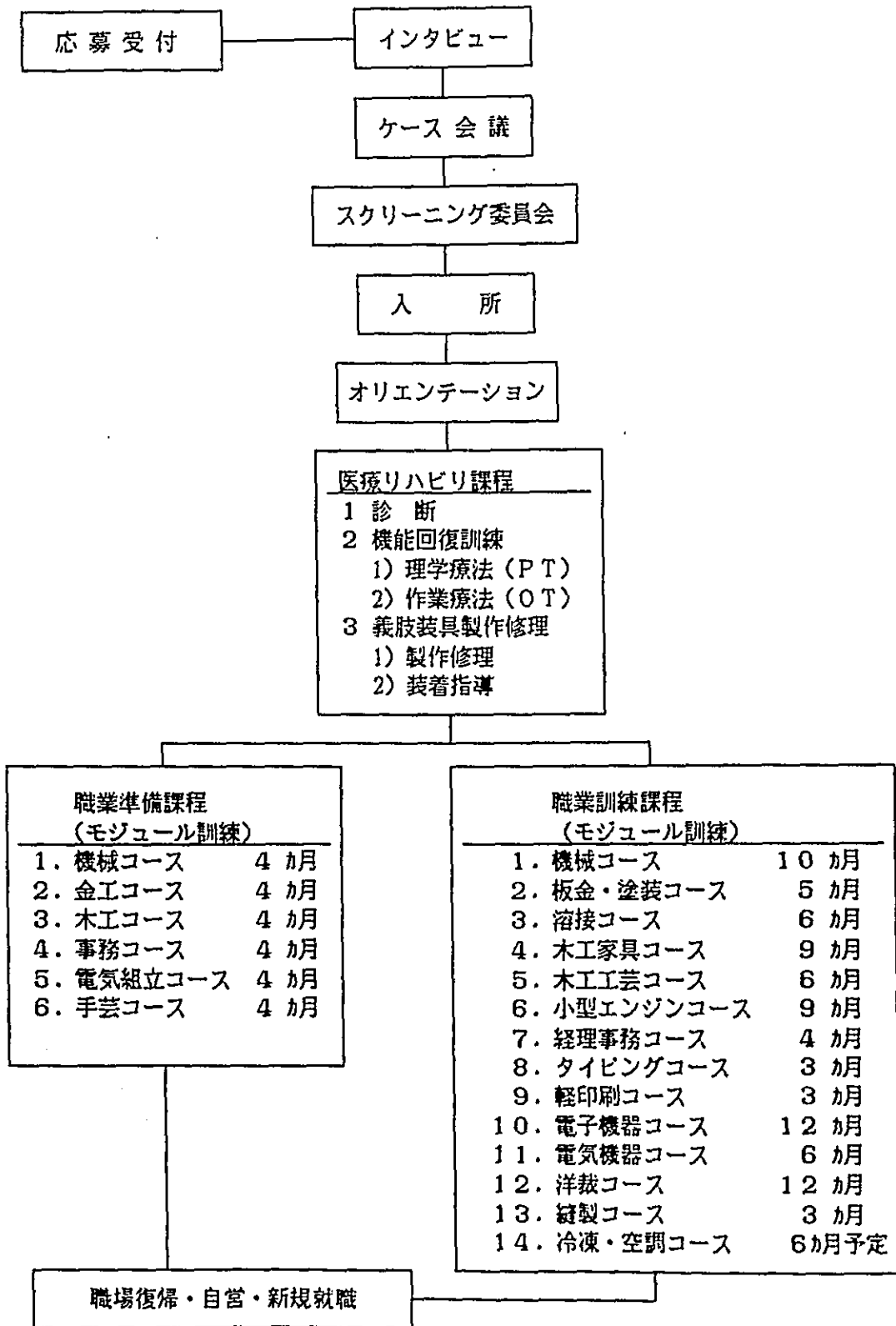
### 3 組織図及び各課所掌業務



(注) 職員数は1990年1月1日現在



4. 業務フローチャート



## 5. 医療リハビリテーション部門の業務内容

### 1) 診断

医師により身体障害者に対して、診断・治療が行われます。また医師は理学療法・作業療法・義肢装具製作修理などの処方業務を行います。

### 2) 理学療法 (P. T. : Physical Therapy)

身体障害者に対し、治療体操その他の運動をさせたり、マッサージ、電気・電子治療機具、温熱治療器具等を用いて物理的刺激を加えることにより、障害者の基本的運動能力の回復を図ります。

### 3) 作業療法 (O. T. : Occupational Therapy)

身体障害者に対して、陶芸、工芸、手芸などの作業をさせることにより、障害部位の運動機能の回復を図ると共に、応用動作能力、社会適応能力の回復を図ります。

### 4) 義肢装具製作修理及び装着指導

身体障害者に対して必要な義手、義足、装具（上・下肢装具、コルセット等）の製作及び修理を行い、併せてその装着指導を行います。

## 6. 職業リハビリテーション部門の業務内容

### 1) 入所生募集

被労災者名簿から対象者を抽出し、同人と連絡を取り、以後入所選考に至るまでの一連の業務を行います。

### 2) 職業能力評価

入所希望者の職業能力を評価します。

また、入所直後に約2週間行われるオリエンテーション期間中に指導・訓練職種を決定するために、入所生の職業能力を評価します。

これらの評価を実施する方法としては、筆記あるいは口述によるテスト、ワークサンプルを使用したテストなどがあります。また、評価を的確にするために、I R C内の他の部門あるいは関係諸機関から入所生個人に関する情報を集めます。

### 3) 職業準備

復職あるいは新規就職のために必要な会社での実務に即応した技能や職業人格の向上を図るため、実践的作業場面を通して個別カリキュラムによって指導します。それらは主に障害の受容、不安の除去、労働耐性及び作業能力の向上を狙いとしています。指導は右記の6コースで行います。指導期間はケースにより異なります。標準は4ヵ月です。

コース	期間
機械	4ヵ月
金工	4ヵ月
木工	4ヵ月
事務	4ヵ月
電気組立	4ヵ月
手芸	4ヵ月

4) 職業訓練

自営あるいは新規就職を目指す入所生を対象として、そのために必要な技能及び関連知識を付与することを目的とします。

訓練コースは右記の14コースで、標準訓練期間は企業内実習を含めて右記の通りです。

5) 職業相談、職業紹介等

必要に応じ入所生の職業カウンセリング、職業相談、職業紹介及び事業主への指導等も行います。

コース	期間
機械	10か月
板金・塗装	5か月
溶接	6か月
木工家具	9か月
木工工芸	6か月
小型エンジン	9か月
経理事務	4か月
タイピング	3か月
軽印刷	3か月
電子機器	12か月
電気機器	6か月
洋裁	12か月
縫製	3か月
冷凍空調	6か月

7. 日本人専門家の派遣

1) 長期専門家派遣

IRCプロジェクトには7年間余の協力期間中、リーダー、調整員の他、複数の専門家からなるチームが派遣されています。

1990年1月1日現在派遣されている長期専門家は、次の通りです。

氏名	担当分野	現在所属先	派遣期間
佐久間 昭明	リーダー	国際協力事業団	87,2,12~91,3,31
北島 隆雄	業務調整	国際協力事業団	87,9,24~91,3,15
中沢 一夫	職業リハビリ	日本障害者雇用促進協会	89,2,7 ~91,3,31
福井 信佳	医療リハビリ	労働福祉事業団	89,2,7 ~91,3,31

尚 これまでに任務を終えて帰国した長期専門家は、12名（リーダー1名、調整員1名、医療リハビリ専門家3名、職業リハビリ専門家7名）となっています。

## 2) 短期専門家派遣

また必要に応じて、短期の技術協力に当たる専門家が派遣されてきました。  
実績は次の通りです。

1984年度	洋裁	1名/1ヵ月
1985 "	洋裁	1名/1ヵ月*3回
	医療リハビリテーション	1名/0.5ヵ月
	木工	1名/1ヵ月*2回
1986 "	洋裁	1名/1ヵ月
	理学療法	1名/1ヵ月
	セミナー講師	1名/1週間
	医療リハビリテーション	1名/0.5ヵ月
	家電修理組立	1名/1ヵ月
	機械	1名/1ヵ月
1987 "	視聴覚教材作成	1名/1ヵ月
	義肢装具作成	1名/3ヵ月
	理学療法	1名/1ヵ月
	切断者リハビリテーション	1名/3週間
	医療リハビリテーション	1名/0.5ヵ月
	小型エンジン(自動二輪)	1名/2ヵ月
	小型エンジン(農業機械)	1名/40日
1988 "	医療リハビリテーション	1名/3週間
	義肢装具リハビリテーション	1名/3週間
	義肢装具作成	1名/3ヵ月
1989 "	義肢装具製作開発	1名/3ヵ月
	理学療法	1名/1.5ヵ月
	小型エンジン	1名/2ヵ月
	冷凍空調	1名/2ヵ月

8. カウンターパートの日本研修

カウンターパートの日本研修のため、協力期間中毎年数名を日本に派遣する計画であり、研修は順調に実施されています。

実績は次の通りです。

年度	研修分野	人数	期間(月数)
1983	リハビリテーション一般	2	2.5
1984	リハビリテーション一般	2	2
	職業準備(機械)	1	9
	職業訓練(電気)	1	12
	理学療法(PT)	1	6
1985	医療リハビリテーション	1	0.5
	リハビリテーション一般	1	2
	職業指導	1	6
1986	作業療法(OT)	1	6
	職業準備(組立)	1	9
	リハビリテーション一般	1	1.5
	リハビリ指導者(集団研修)	1	1.5
	日本語(集団研修)	1	7
1987	職業準備(金工)	1	9
	職業準備(木工)	1	9
	視聴覚教材作成	1	6
	医療リハビリテーション	1	4
	義肢装具製作	1	8
	リハビリテーション行政	1	1
1988	医療リハビリテーション	1	4
	義肢装具製作	1	6.5
	リハビリテーション一般	1	0.5
	医療リハビリテーション	1	12
1989	職業準備(小型エンジン)	1	6
	職業訓練(冷凍空調)	1	6
	理学療法(PT)	1	6
	職業訓練(電子)	1	10
	(予定) 医療リハビリテーション	1	0.5
	// 職業紹介	1	2
	// 職業評価	1	6

## 9. 機材供与の状況

I R Cプロジェクトに対する機材の供与は、無償資金協力によるものとプロジェクト方式技術協力によるものとがあります。

基本的には、主要な機材については無償資金協力に基づいて供与され、それを補完するかたちでプロジェクト方式技術協力に基づく機材供与が毎年行われています。

各部門の主な機材は次の通りです。

### 1) 無償資金協力に基づくもの(供与金額:約2億円)

管理部門	マイクロバス、V T Rシステム等
医療リハ部門	デジタル握力計、オーバーヘッドフレーム、トレッドミル、渦流浴、電動式間欠牽引器、カービングマシン、電気炉、八方マシン、サンディングマシン、低周波治療器、四頭筋訓練器、ベンチドリル、グラインダー、ピンチメーター、昇降式作業台等
評価・指導部門	一般職業適性検査器具等
職業準備部門	V T R観察装置、旋盤、パワーハクソーマシン、刃物研削盤、折り曲げ機、足踏みシャーリング、ねじプレス、ベンチレーター、超鋼刃物研削盤、手押しカンナ盤、自動カンナ盤、昇降傾斜盤、角ノミ盤、集塵装置、木工プレス、横びき丸鋸盤、ルーター、複写機、動力切断器、オフセット印刷機、パソコン等
職業訓練部門	カラーT V実験装置、自動電圧調整器、可変減衰器、V T Rシステム、手動マシン、工業動力マシン、バキュームアイロン台、ロックマシン、下肢障害者用工業マシン、裁断台等

### 2) プロジェクト方式技術協力に基づくもの

(供与額:毎年度2,000万~3,000万円程度)

共通部門	ライトバン、バス、小型トラック、視覚機器、コンピューター、コピー機等
医療リハ部門	マイオトレーナー、サスペンション・トロリー、バランスアナライザー、極超短波治療器、サイバックス、バキュームポンプ、超音波治療機、手指関節運動屈伸装置等
評価・指導部門	手指機能検査器、ワークサンプル等
職業準備部門	木工倣い旋盤、卓上旋盤、卓上彫刻機、各種電気溶接機、折曲機、ユニバーサル・ベルトサンダー、ラジアルボール盤、モーターサイクルエンジン、ミーリングマシン、作業工具等
職業訓練部門	各種家電製品及びパーツ、電動作業工具、卓上旋盤等

## 10. 建物・施設の状況

建物の設計及び施工監理は伊藤喜三郎建築事務所が、また施工は西松建設(株)が行い、

1984年4月に着工し、1年後の1985年3月に竣工しました。

建物は、使用者が身体障害者であることを考慮して、すべて平屋建てとしてあります。また屋根を高くして風通しを良くする一方、軒を長くして日光を遮ることにより、室内の温度の上昇を抑えるように設計されています。

敷地面積 45,600 平方メートル

延床面積 6,966 平方メートル

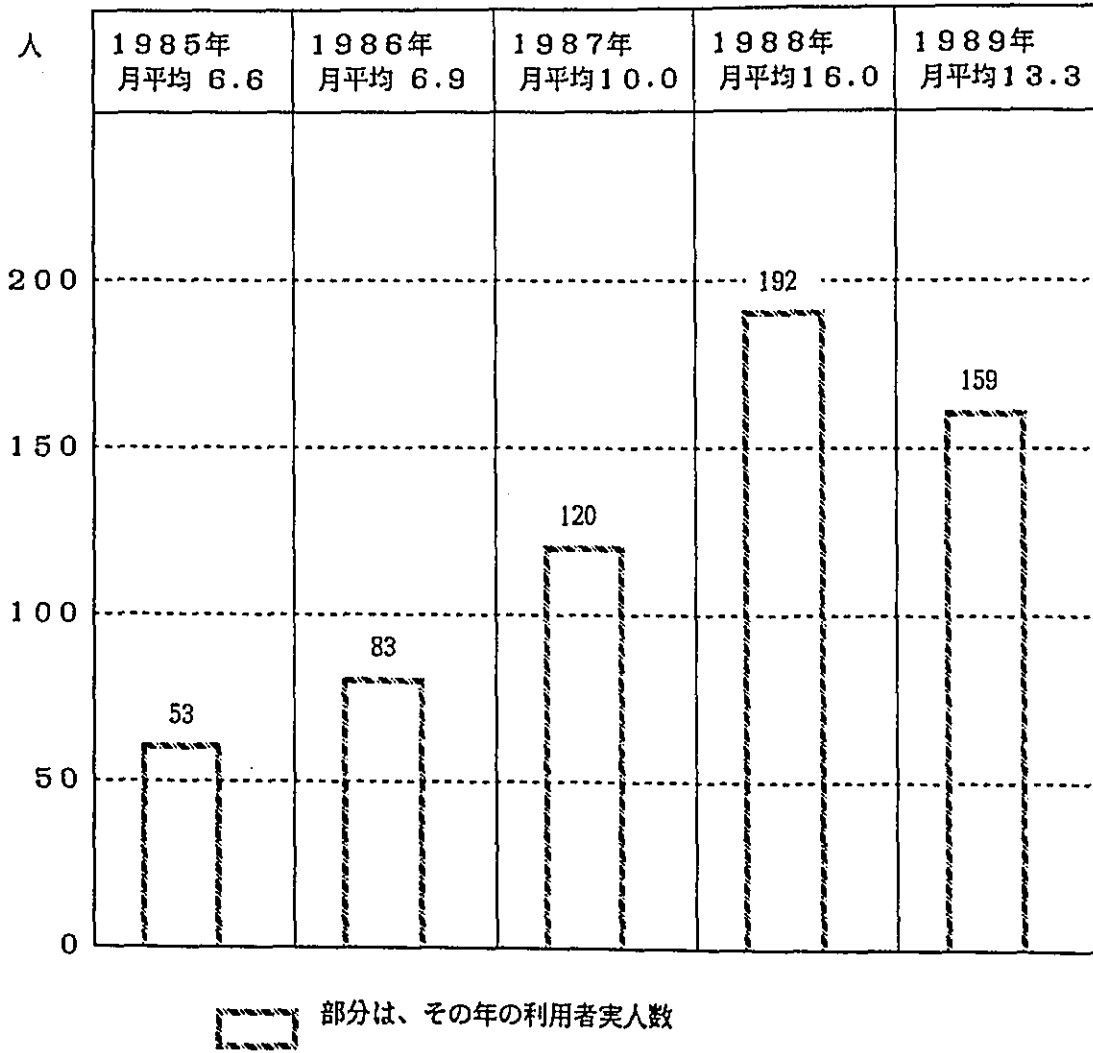
管理棟、医療・評価棟、職業準備・訓練棟、宿舎棟、食堂・講堂棟

宿舎は4棟あり、100名まで収容できます。1室のベット数は6床です。

食堂は朝7時から夜8時まで開いており、常時利用できます。但し入所生は、食事の時間が決められており、食事以外の利用は禁止されています。

11. 資料  
 1) 資料 1

年別 I R C 利用状況  
 1989年 12月 31日 現在



2) 資料 2

タイ国内での労働災害発生件数

Intensity of Haz.	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
Injuries or Minorinj	26,545	28,285	33,864	39,076	38,618	36,805	41,833	49,400
Loss of Organs	1,796	1,293	718	1,536	1,359	1,206	1,375	1,215
Disabled or Crippled					42	36	43	35
Death	425	411	346	444	402	363	393	339
TOTAL (Death)	28,341 (425)	29,578 (411)	34,582 (346)	40,612 (444)	40,019 (402)	38,047 (363)	43,251 (393)	50,640 (339)
前年度との増減		+ 1000	+ 5000	+ 6000	0	- 2000	+ 5000	+ 7000

12. IRC所在地

Industrial Rehabilitation Center (IRC)  
 97 Moo 3, Bangphoon, Amphur Muang,  
 Pathumthani, 12000, Thailand  
 電話：5816960-1





5. タイ側提出資料

รายงานผลการปฏิบัติงาน

2531 - 2532

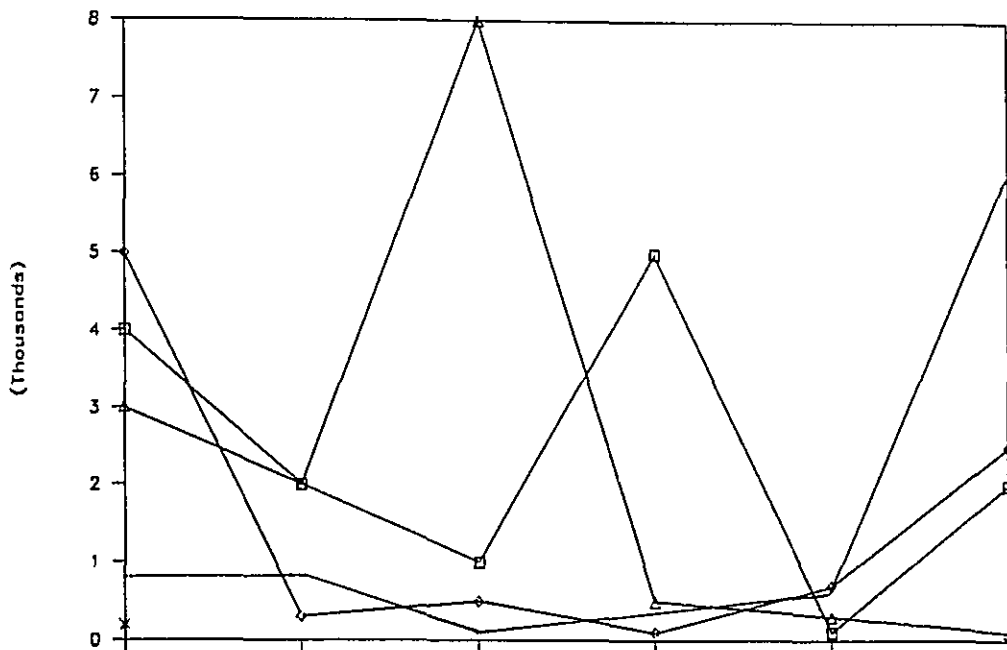
ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน

=====

ACHIEVEMENT REPORT FOR 1988 - 1989

THE INDUSTRIAL REHABILITATION CENTRE (IRC)

=====



=====

สำนักงานกองทุนเงินทดแทน

กรมแรงงาน

-----

WORKMEN'S COMPENSATION FUND

DEPARTMENT OF LABOUR

=====

## คำนำ

กรมแรงงาน ได้เริ่มดำเนินงานศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน สำนักงานกองทุนเงินทดแทน ขึ้นเมื่อปี พ.ศ. 2528 เพื่อให้การคุ้มครองแรงงานและส่งเสริมสวัสดิการแก่ลูกจ้างพิการอันเนื่องมาจากการทำงาน โดยจัดบริการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านอาชีพและด้านการแพทย์ที่เหมาะสมให้แก่ลูกจ้างที่จำเป็นต้องรับการฟื้นฟู

ในระยะเวลา 5 ปีที่ผ่านมาเป็นการดำเนินงานในช่วงแรกของโครงการได้ให้บริการแก่ลูกจ้างที่พิการสามารถกลับไปทำงานเลี้ยงตนเองและครอบครัว ได้อย่างประสบความสำเร็จพอสมควร ทั้งนี้โดยได้รับความร่วมมือจากนายจ้าง ลูกจ้างและครอบครัว บุคลากรของโรงพยาบาลทั้งภาครัฐบาล และ เอกชน รวมทั้งหน่วยงานที่เกี่ยวข้องซึ่งต้องขอขอบคุณมา ณ โอกาสนี้

เพื่อให้ นายจ้าง ลูกจ้าง รวมทั้งผู้สนใจทั่วไปได้ทราบถึงผลการดำเนินงานที่ผ่านมาศูนย์ฯ จึงได้จัดพิมพ์รายงานผลการดำเนินงานศูนย์ฯ ตั้งแต่ปี พ.ศ. 2528 - 2530 ขึ้นเป็นฉบับแรกแล้วและสำหรับรายงานฉบับที่ 2 นี้จะแสดงผลการดำเนินงานในปี พ.ศ. 2531-2532 ซึ่งผู้จัดทำหวังว่าจะก่อให้เกิดประโยชน์แก่ผู้สนใจทุกท่านโดยทั่วกัน

ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน

## PREFACE

The Department of Labour started to operate Industrial Rehabilitation Centre Project, the Office of Workmen's Compensation Fund in 1985 in order to give labour protection and labour welfare to the industrially disabled workers by providing vocational rehabilitation concurrently with necessary medical rehabilitation services.

For 5 years, the first stage of the Project, The IRC provided to achieve the disabled to return to work and to be able to earn their lives and their families due to the co-operation given by employers, employees and families, personnel from government and private hospital including some organizations related. Therefore, it's very pleased to take this auspicious to thank them all.

The IRC published the Report of IRC Achievement (1985-1987) as the first reference and this report is the second one which will present the IRC achievement of 1988 - 1989. We do hope that it will be useful for all concerned.

The Industrial Rehabilitation Centre

สารบัญ  
Contents

หน้า/Page

คำนำ	
Preface	
สารบัญ	
Contents	
ความเป็นมา	1
Background	
การแบ่งส่วนราชการศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน	11
The Organization Chart of the IRC	
ขั้นตอนการฟื้นฟูสมรรถภาพในการทำงาน	13
Flow chart of services in IRC	
อัตรากำลัง	15
Personnel	
แผนภูมิ 1 อัตรากำลัง	16
Figure 1 Personnel	
ตารางที่ 1 งบประมาณที่ได้รับและจ่ายจริงจำแนกตามหมวดค่าใช้จ่าย ปีงบประมาณ 2531 - 2532	17
Table 1 Approved budget and expenditure by item, Fiscal year 1988 - 1989	
ตารางที่ 2 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2528 - 2532	18
Table 2 The achievement of IRC in 1985 - 1989	
ตารางที่ 3 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2531 จำแนกตามกิจกรรมเป็นรายเดือน	19
Table 3 The IRC achievement in 1988 by activities and month	
ตารางที่ 4 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2532 จำแนกตามกิจกรรมเป็นรายเดือน	21
Table 4 The IRC achievement in 1989 by activities and month	
ตารางที่ 5 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 จำแนกตามเพศและอายุ	23
Table 5 Number of IRC trainees in 1988 by age and sex	

ตารางที่ 6	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2532 จำแนกตามเพศและอายุ	24
Table 6	Number of IRC trainees in 1989 by age and sex	
ตารางที่ 7	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 จำแนกตามเพศสถานภาพการสมรส และระดับการศึกษา	25
Table 7	Number of trainees in 1988 by sex, marital status and level of educational attainment	
ตารางที่ 8	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2532 จำแนกตามเพศสถานภาพการสมรส และระดับการศึกษา	27
Table 8	Number of trainees in 1988 by sex, marital status and level of educational attainment	
ตารางที่ 9	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 จำแนกตามเพศ และลักษณะความพิการ	29
Table 9	Number of trainees in 1988 by age and type disability	
ตารางที่ 10	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2532 จำแนกตามเพศ และลักษณะความพิการ	30
Table 10	Number of trainees in 1989 by age and type disability	
ตารางที่ 11	แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531	31
Table 11	Cause and type of disability of IRC trainees, 1988	
ตารางที่ 12	แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2532	32
Table 12	Cause and type of disability of IRC Trainees, 1989	
ตารางที่ 13	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ด้านกายภาพบำบัด ปี 2531 จำแนกเป็นรายเดือน	40
Table 13	Number of trainees who get physical therapy in 1988 - 1989 by month	
ตารางที่ 14	แสดงการให้บริการด้านกายภาพบำบัด ปี 2531 - 2532 จำแนกเป็นรายเดือน	41
Table 14	Physical Therapy service in 1988 - 1989 by month	
ตารางที่ 15	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ด้านอาชีพบำบัด ปี 2531 - 2532 จำแนกเป็นรายเดือน	42
Table 15	Number of trainees who get Occupational Therapy in 1988 - 1989 by month	

ตารางที่ 16	แสดงการให้บริการด้านอาชีวบำบัด ปี 2531 - 2532 จำแนกเป็นรายเดือน	43
Table 16	Occupational Therapy service in 1988 - 1989 by month	
ตารางที่ 17	แสดงจำนวนผู้เข้ารับบริการด้านกายอุปกรณ์และผ่าตัด ปี 2531 จำแนกเป็นรายเดือน	44
Table 17	Number of trainees who get Prosthesis service and Operation in 1988 by month	
ตารางที่ 18	แสดงจำนวนผู้เข้ารับบริการด้านกายอุปกรณ์และผ่าตัด ปี 2532 จำแนกเป็นรายเดือน	45
Table 18	Number of trainees who get Prosthesis service and Operation in 1989 by month	
ตารางที่ 19	แสดงจำนวนเครื่องช่วยและเครื่องดาม จัดบริการในปี 2531 - 2532 จำแนกเป็นรายเดือน	46
Table 19	Number of aid devices and splints supply in 1988 - 1989 by month	
ตารางที่ 20	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบ อาชีพปี 2531 จำแนกตามเพศและสาขางาน	47
Table 20	Number of trainees and occupational in 1988 by sex and course	
ตารางที่ 21	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบ อาชีพปี 2532 จำแนกตามเพศและสาขางาน	50
Table 21	Number of trainees and occupational in 1989 by sex and course	
ตารางที่ 22	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟูปี 2531 - 2532 จำแนกตามเขตภูมิลำเนา	53
Table 22	Number of IRC trainees in 1988 - 1989 by location of domicile	
ตารางที่ 23	แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟูปี 2531 - 2532 จำแนกตามเขตจังหวัด ที่ตั้งสถานประกอบการ	57
Table 23	Number of IRC trainees in 1988 - 1989 by location of Establishment	

ตารางที่ 24 แสดงจำนวนผู้จบการฝึกนึ่งฟูฯ ปี 2531 - 2532 จำแนกตามที่ตั้ง  
สถานประกอบการ

60

Table 24 Number of the graduated trainees in 1988 - 1989  
by location of establishment

แผนภูมิ 2 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2528 - 2532

Figure 2 The achievement of IRC in 1985 - 1989 by activities

แผนภูมิ 3 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึกนึ่งฟูฯ ปี 2531 - 2532 จำแนกตามอายุ

Figure 3 Number of IRC trainees in 1988 - 1989 by age

แผนภูมิ 4 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึกนึ่งฟูฯ ปี 2531 - 2532 จำแนกตามลักษณะความพิการ

Figure 4 Number of trainees in 1988 - 1989 by type of disability

\*\*\*\*\*



## ความเป็นมา

ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน กรมแรงงาน กระทรวงมหาดไทยตั้งอยู่ที่ตำบลบางพูน อำเภอเมือง จังหวัดปทุมธานี จัดตั้งขึ้นภายใต้ความร่วมมือระหว่างรัฐบาลญี่ปุ่นกับรัฐบาลไทย โดยรัฐบาลญี่ปุ่นได้ให้ความช่วยเหลือผ่านองค์การความร่วมมือระหว่างประเทศญี่ปุ่น (Japan International Co-operation Agency : JICA) ในรูปให้เปล่าในการก่อสร้างอาคารศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน การจัดหาและติดตั้งเครื่องจักรอุปกรณ์เป็นมูลค่า 1,090 ล้านบาทหรือประมาณ 104 ล้านบาท ส่วนรัฐบาลไทยรับผิดชอบในเรื่องการจัดหาและปรับถมที่ดิน การสร้างรั้ว บ้านพักเจ้าหน้าที่และงบประมาณในการบริหารงาน

นอกจากความช่วยเหลือในรูปให้เปล่าดังกล่าวข้างต้น รัฐบาลญี่ปุ่นยังให้ความช่วยเหลือด้านวิชาการอีกระยะเวลา 5 ปี(กุมภาพันธ์ 2527 - กุมภาพันธ์ 2532) ซึ่งได้แก่การส่งผู้เชี่ยวชาญมาปฏิบัติงานประจำ ณ ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน การจัดส่งรถพยาบาล ๗ คัน ประเทศญี่ปุ่นแก่เจ้าหน้าที่ ตลอดจนการจัดหาวัสดุอุปกรณ์ที่จำเป็นในแต่ละปี

หลังจากการก่อสร้างอาคารและติดตั้งเครื่องจักรอุปกรณ์แล้วเสร็จ สมเด็จพระเทพรัตนราชสุดาฯ สยามบรมราชกุมารี ทรงพระกรุณาโปรดเกล้าฯ เสด็จพระราชดำเนินเป็นองค์ประธานในพิธีเปิดอาคารศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน เมื่อวันที่ ๗ กรกฎาคม ๒๕๒๘ และทรงพระกรุณาโปรดเกล้าฯ พระราชทานชื่อมูลนิธิเพื่ออนุเคราะห์ลูกจ้างนิการว่า "มูลนิธิศุภนิการ"

## วัตถุประสงค์

การจัดตั้งศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน มีวัตถุประสงค์เพื่อช่วยเหลือลูกจ้างที่นิการจากการทำงานให้สามารถกลับสู่สังคม สามารถประกอบอาชีพได้โดยการให้บริการฟื้นฟูสมรรถภาพในการทำงาน ซึ่งประกอบด้วยบริการหลัก ๒ ประการคือ การฟื้นฟูสมรรถภาพด้านอาชีพ และการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์

## หน้าที่ความรับผิดชอบ

ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน กรมแรงงาน มีหน้าที่รับผิดชอบหลัก ดังนี้

### 1. ให้บริการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านอาชีพ

ศูนย์ฯ ได้จัดทำหลักสูตรระบบโมดูลตามแนวขององค์การแรงงานระหว่างประเทศมาปรับใช้เพื่อให้เหมาะสมกับสภาพสังคมไทย ทั้งนี้ได้แบ่งการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านอาชีพออกเป็น 2 ประเภทคือ

#### 1.1 การเตรียมเข้าทำงาน (Work Preparation)

การเตรียมเข้าทำงาน เป็นหลักสูตรที่เน้นให้ลูกจ้างนิการได้รับการฝึกงานให้สามารถปรับตัวและปรับสภาพความพิการ เพื่อกลับเข้าทำงานในสถานประกอบเดิม โดยในขณะที่ฝึกงานนั้นลูกจ้างผู้เข้ารับการฟื้นฟูฯ จะได้รับบริการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์ควบคู่กันไป ศูนย์ฯ จึงจัดทำแผนการฝึกเฉพาะสำหรับผู้เข้ารับการฟื้นฟูฯ แต่ละคนโดยพิจารณาถึงลักษณะงานที่ผู้เข้ารับการฟื้นฟูฯ เคยปฏิบัติมาก่อน สภาพความพิการ ความต้องการของนายจ้างและลูกจ้าง การเตรียมเข้าทำงานเป็นการฝึกระยะสั้นประมาณ 4 เดือนประกอบด้วยงานสาขาต่าง ๆ 6 สาขาดังนี้ด้วย

1. สาขางานเครื่องมือกล	4	เดือน
2. สาขางานโลหะ	4	เดือน
3. สาขางานไม้	4	เดือน
4. สาขางานประกอบชิ้นส่วน	4	เดือน
5. สาขางานสำนักงาน	4	เดือน
6. สาขางานสิ่งประดิษฐ์	4	เดือน

#### 1.2 การฝึกอาชีพ (Vocational Training)

การฝึกอาชีพ เป็นการให้บริการฝึกอาชีพโดยเน้นให้เกิดความชำนาญงานสามารถออกไปประกอบอาชีพส่วนตัว หรือทำงานในสถานประกอบการใหม่ ทั้งนี้ผู้เข้ารับการฝึกอาชีพจะต้องสิ้นสุด หรือ ใกล้จะสิ้นสุดการรับบริการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์แล้ว การฝึกอาชีพประกอบด้วย 13 สาขางานดังนี้คือ

1. สาขางานเครื่องมือกล	10	เดือน
2. สาขางานโลหะแผ่นและสีโลหะ	5	เดือน
3. สาขางานเชื่อมโลหะ	6	เดือน
4. สาขางานไม้เฟอร์นิเจอร์	9	เดือน
5. สาขางานไม้ประติมากรรม	6	เดือน
6. สาขางานเครื่องยนต์เล็ก	9	เดือน
7. สาขางานสำนักงาน	4	เดือน
8. สาขางานพิมพ์ดีด	3	เดือน
9. สาขางานพิมพ์	3	เดือน
10. สาขางานอิเล็กทรอนิกส์	12	เดือน
11. สาขางานซ่อมเครื่องใช้ไฟฟ้า	6	เดือน
12. สาขางานตัดเย็บเสื้อผ้า	12	เดือน
13. สาขางานเย็บจักรอุตสาหกรรม	3	เดือน

2. ให้บริการฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์

การฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์ เป็นการให้การบำบัดด้านกายภาพบำบัด อาชีวบำบัด ประกอบหรือซ่อมแซมกายอุปกรณ์เทียม หรือกายอุปกรณ์เสริม และการแก้ไขความพิการ

การรักษาทางกายภาพบำบัด เป็นการบำบัดรักษาและฟื้นฟูสมรรถภาพร่างกาย ให้สู่สภาพปกติหรือใกล้เคียงปกติมากที่สุดด้วยวิธีการทางกายภาพบำบัด ได้แก่การออกกำลังกาย การรักษาด้วยความร้อน การรักษาด้วยเครื่องไฟฟ้าต่าง ๆ เช่น เครื่องกระตุ้นไฟฟ้า เครื่องนวดอุลตราซาวด์ เป็นต้น

การรักษาทางอาชีวบำบัด เป้าหมายในการรักษาเพื่อป้องกันความพิการแก้ไขความบกพร่อง และส่งเสริมให้ผู้พิการใช้หรือยวะที่เหลือหรือใช้ร่วมกับกายอุปกรณ์เทียม หรือกายอุปกรณ์เสริมช่วยเหลือตนเองให้อยู่ในภาวะปกติได้โดยอาศัยกิจกรรมหรืองานต่าง ๆ เป็นสื่อในการรักษา

การประกอบและการซ่อมแซมกายอุปกรณ์เทียม ทำการซ่อมแซมกายอุปกรณ์เทียมจัดทำกายอุปกรณ์เสริมและประสานงานกับโรงพยาบาล ในการประกอบหรือซ่อมแซมกายอุปกรณ์เทียมให้แก่ผู้เข้ารับบริการฟื้นฟูฯ เพื่อให้สามารถใช้กายอุปกรณ์เทียมในการประกอบอาชีพได้

### 3. การประเมินสมรรถภาพและแนะแนว

การประเมินสมรรถภาพความพิการ เป็นการประเมินเบื้องต้นเพื่อให้ทราบว่าร้อยละส่วนที่เหลืออยู่สามารถฟื้นฟูให้ดีขึ้นได้อย่างไร ส่วนการแนะแนวอาชีพเป็นกระบวนการช่วยเหลือในการแก้ปัญหาเกี่ยวกับกับการเลือกสาขาอาชีพเพื่อเข้ารับการฝึก โดยพิจารณาโอกาสที่จะมีงานทำ การเลือกสาขาอาชีพลูกจ้างจะเลือกด้วยตนเองผู้แนะแนวอาชีพจะเป็นเพียงผู้ชี้แนะให้แก่ลูกจ้างโดยให้สอดคล้องกับสภาพการณ์ที่เป็นจริง

### คุณสมบัติของผู้สมัคร

ผู้สมัครเข้ารับการฟื้นฟูสมรรถภาพในการทำงาน ต้องเป็นผู้มีคุณสมบัติดังต่อไปนี้

1. เป็นลูกจ้างที่พิการจากการทำงาน
2. สามารถช่วยตัวเองได้ในการปฏิบัติกิจวัตรประจำวันและสภาพความพิการที่เกิดขึ้นสามารถฟื้นฟูสมรรถภาพในการทำงานให้ดีขึ้นได้
3. ไม่เป็นผู้ติดยาเสพติดให้โทษ ไม่เป็นโรคเรื้อรัง โรคติดต่อร้ายแรง หรือโรคติดต่อระยะอันตราย พิจารณาทางสมอง จิตฟั่นเฟือน ไม่สมบูรณ์
4. อายุ 12 ปีขึ้นไป ไม่จำกัดความรู้ ยกเว้นผู้ที่ฝึกอาชีพสาขางานซ่อมเครื่องใช้ไฟฟ้า ต้องสำเร็จการศึกษาระดับประถมศึกษา (ป.6) ขึ้นไป

### การสมัครเข้ารับการฟื้นฟูสมรรถภาพ

ผู้ประสงค์จะสมัครเข้ารับการฟื้นฟูฯ ให้ยื่นใบสมัครตามแบบที่กำหนด โดยติดต่อขอรับและยื่นใบสมัคร ณ

- ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน เลขที่ 97 หมู่ 3 ตำบลบางขุน อำเภอเมือง จังหวัดปทุมธานี 12000 โทร. 581-6960, 581-6961
- สำนักงานกองทุนเงินทดแทน กรมแรงงาน ถนนอิฐญาติ กรุงเทพฯ 10200 โทร. 221-6833, 221-6866
- สำนักงานแรงงานจังหวัด ทุกจังหวัด

## บริการอื่นที่ศูนย์ฯ จัดให้

ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน จัดบริการต่อไปนี้โดยไม่คิดมูลค่า

- หอพัก สำหรับผู้เข้ารับการฟื้นฟูฯ 2 อาคาร จำนวนทั้งสิ้น 100 เตียง
- อาหาร 3 มื้อ สำหรับผู้ที่อยู่หอพัก และอาหารกลางวัน 1 มื้อ สำหรับผู้เดินทางไป - กลับ
- อุปกรณ์กีฬาและเครื่องดนตรี เพื่อการพักผ่อนและนันทนาการ
- ให้คำปรึกษาด้านแนะแนวอาชีพ ตลอดจนปัญหาส่วนตัวโดยนักสังคมสงเคราะห์
- ประสานงานในการจัดหางาน สำหรับผู้ที่จบหลักสูตรการฟื้นฟูสมรรถภาพ

## มูลนิธิศุภคาร

กรมแรงงานได้ดำเนินการจัดตั้งมูลนิธิเพื่อโครงการศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงานขึ้น โดยกระทรวงมหาดไทยได้ขอพระราชทานชื่อมูลนิธิจาก องค์สมเด็จพระเทพรัตนราชสุดาฯ สยามบรมราชกุมารี ซึ่งพระองค์พระราชทานนามว่า "มูลนิธิศุภคาร" โดยมี นายนิศาล มูลศาสตร์สาทร เป็นประธานคณะกรรมการมูลนิธิฯ มูลนิธินี้จัดตั้งขึ้นเพื่ออนุเคราะห์ลูกจ้างที่พิการหรือทุพพลภาพให้สามารถประกอบอาชีพได้หลังจากจบการฟื้นฟูสมรรถภาพในการทำงาน เช่น เป็นทุนสำหรับประกอบอาชีพอิสระหรือ เป็นค่าใช้จ่ายช่วยเหลือคนพิการในลักษณะอื่น ๆ ตามความจำเป็นภายใต้โครงการศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน

ผู้มีจิตศรัทธาประสงค์จะบริจาคเงินสมทบทุนมูลนิธิ ติดต่อขอบริจาคได้ที่ ศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน หรือที่สำนักงานกองทุนเงินทดแทน กรมแรงงาน

## BACKGROUND

The Industrial Rehabilitation Centre (IRC), Department of Labour, Ministry of Interior, which is located in Pathumthani Province, covers an area of 37 rai (about 59,200 m<sup>2</sup>) was contributed a 1,090 million yen (about 104 million baht) as a grant aid by the Japanese Government through the Japan International Cooperation Agency (JICA) for the construction of the buildings and installation of the equipment. Thai Government are responsible for preparing the land, the construction of the staff house and the fence including staff recruitment and providing annual budget for overall administration.

## OBJECTIVE

The IRC objective is to help the disabled workers whose disabilities derived from work accident able to work in society through the process of rehabilitation services.

## FUNCTION AND RESPONSIBILITY

### 1. To provide Vocational Rehabilitation

Vocational rehabilitation services in IRC are divided into 2 main sections, namely: work preparation and vocational training sections.

#### 1.1 Work Preparation

The training in this section is conducted under

an individual programme, aim at recovering rehabilitants physical and mental condition and training them to utilize their potential to perform their work in order to place them back to their previous jobs with a short period of time.

Courses in Work Preparation Section. (training duration is approximately 4 months)

- a. Machine work Course
- b. Metal work Course
- c. Wood work Course
- d. Assembly work Course
- e. Clerical work Course
- f. Handicraft Course

#### 1.2 Vocational Training

The training in this section aims at giving rehabilitants with high-level skill in their training field to enable them to be self-employed or get a new job. Training duration is 3 - 12 months.

Courses in Vocational Training Section:-

- |                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| a. Machine Course                | 10 months |
| b. Sheet metal & painting Course | 5 months  |
| c. Welding Course                | 6 months  |
| d. Furniture Course              | 9 months  |
| e. Wood craft Course             | 6 months  |
| f. Small Engine Course           | 9 months  |
| g. Clerical work Course          | 4 months  |
| h. Typing Course                 | 3 months  |
| i. Light printing Course         | 3 months  |
| j. Electronics Course            | 12 months |
| k. Electric Course               | 6 months  |
| l. Dress-making Course           | 12 months |
| m. Sewing Course                 | 3 months  |

## 2. To provide Medical Rehabilitation Service

Since medical rehabilitation can be available at any stage of vocational rehabilitation. The IRC provides medical rehabilitation services concurrently with vocational rehabilitation which are; Physical Therapy (P.T.) services and Occupational Therapy (O.T.) services to the rehabilitants who still need these treatment after medical treatment in the hospital. The purpose of these services not only lightens the degree of physical disabilities but also helps them to obtain their functional restoration to attain a compensatory function in their work.

Besides two main services, IRC also provide Vocational Assessment and Vocational Guidance.

To prepare for employment, rehabilitants must be assessed as regards the capacities, abilities, potentialities, employabilities etc. and vocational guidance is conducted during the disabled worker receives rehabilitation services which the programme is arranged in accordance with the rehabilitant's conditions, i.e. disability, skill, aptitude, desire, and so on.

## REQUIREMENT FOR APPLICATION

1. A disabled worker sustaining disability in consequence of work.

2. His disability, after receiving rehabilitation services, can be lessened and he is able to manage his daily living by himself.

3. One who is not drug addictor, has no chronic illness or serious transferable disease, no mental deterioration or permanent brain damage.



4. One who is at the age of 12 and up-wards is qualified without educational background, except those who need to attend vocational rehabilitation in Electric Course, the certificate of primary school (grade 6) is required.

#### APPLICATION

Those who wish to apply for IRC are required to submit a prescribed application form to the offices mentioned below. Detail information for application is also available at these offices.

- The Industrial Rehabilitation Centre (IRC) 97 Moo 3, Bangpoon, Mueng District, Pathumthani Province, 12000  
Tel. 581-6960, 581-6961
- The Office of Workmen's Compensation Fund, The Department of labour, The Ministry of Interior, Bangkok 10200  
Tel. 221-6833, 221-6866
- Provincial Labour Offices

#### OTHER SERVICES IN IRC

Services provided in IRC are as follows. All of them are free of charge.

- Dormitory: two buildings with 100 beds.
- Three meals a day for boarding rehabilitants. One meal a day for living out rehabilitants.
- Recreational goods

- Coordination with agencies concerned about providing the job for those who have completed the rehabilitation program in IRC.

#### KHUNAKORN FOUNDATION

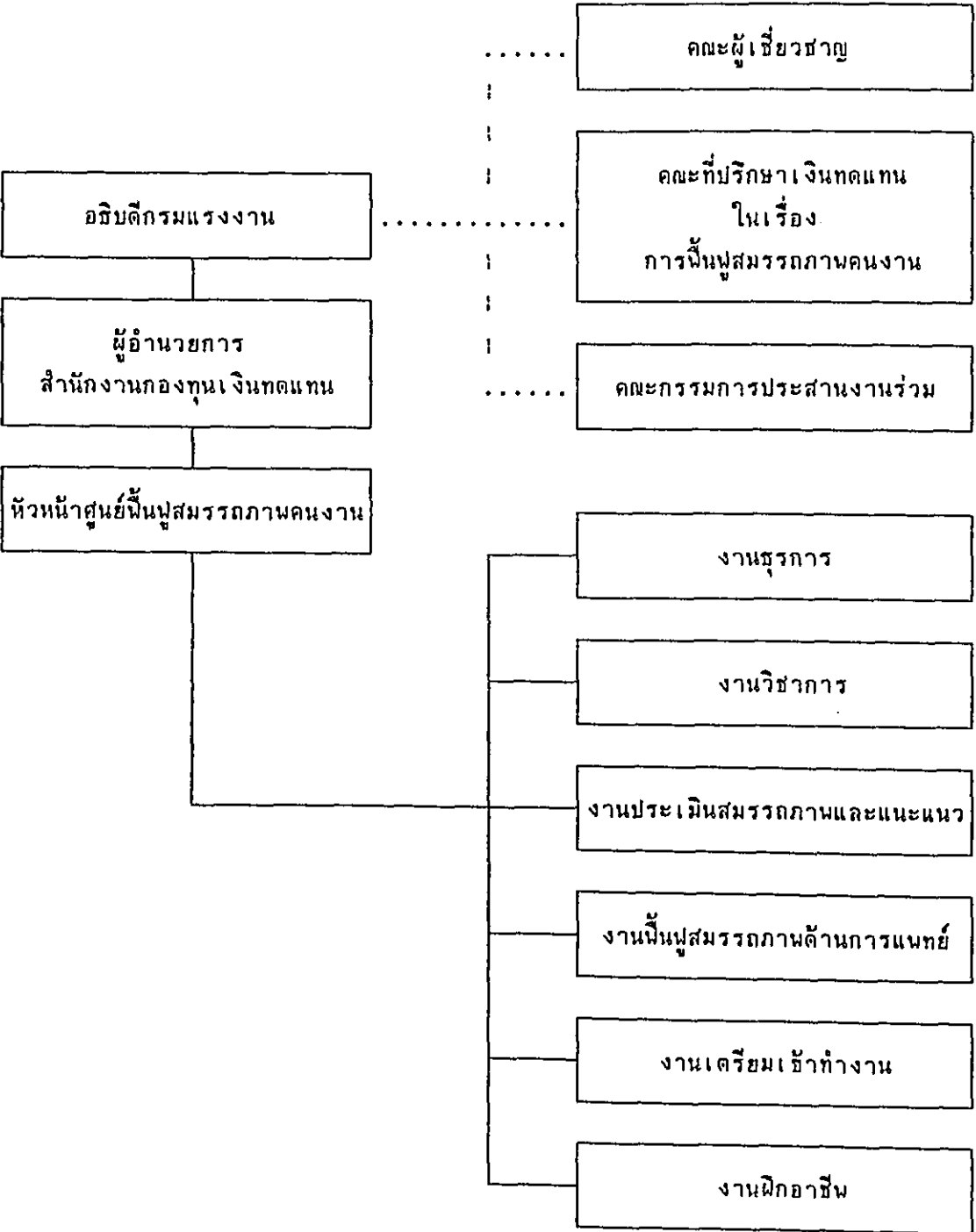
The Department of Labour has established a foundation for IRC Project. The foundation was named "Khunakorn Foundation" by Her Royal Highness Princess Mahachakri Sirindhorn at the request of the Ministry of Interior.

The objective of the Foundation is to help disabled workers return to work after completion of the vocational rehabilitation programme, i.e. providing a fund for self-employment or other expenses as the need arises.

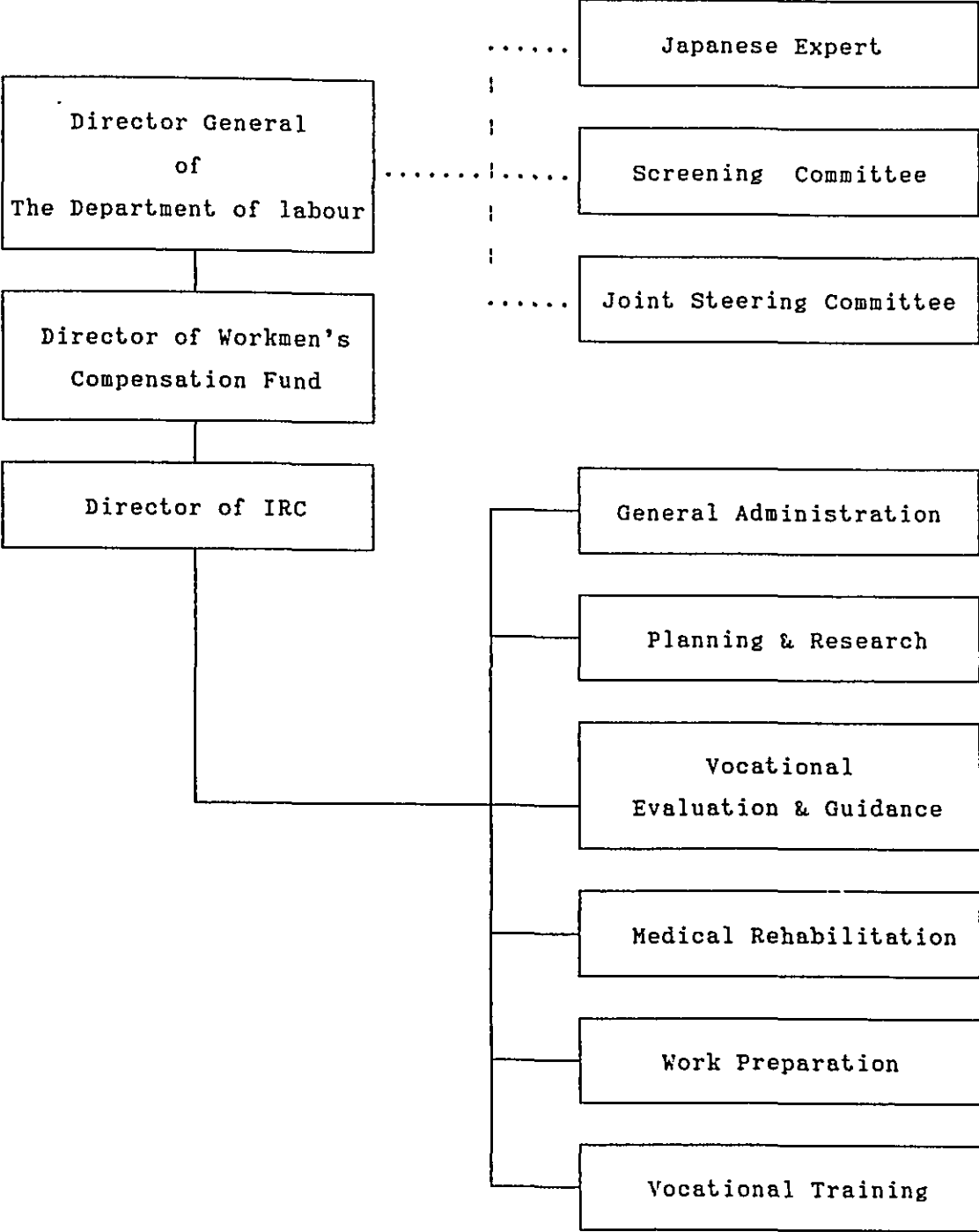
Those who support the objective of the Foundation are kindly requested to make a donation to the Foundation. Information for donation is available at IRC or Office of Workmen's Compensation Fund the Department of Labour.

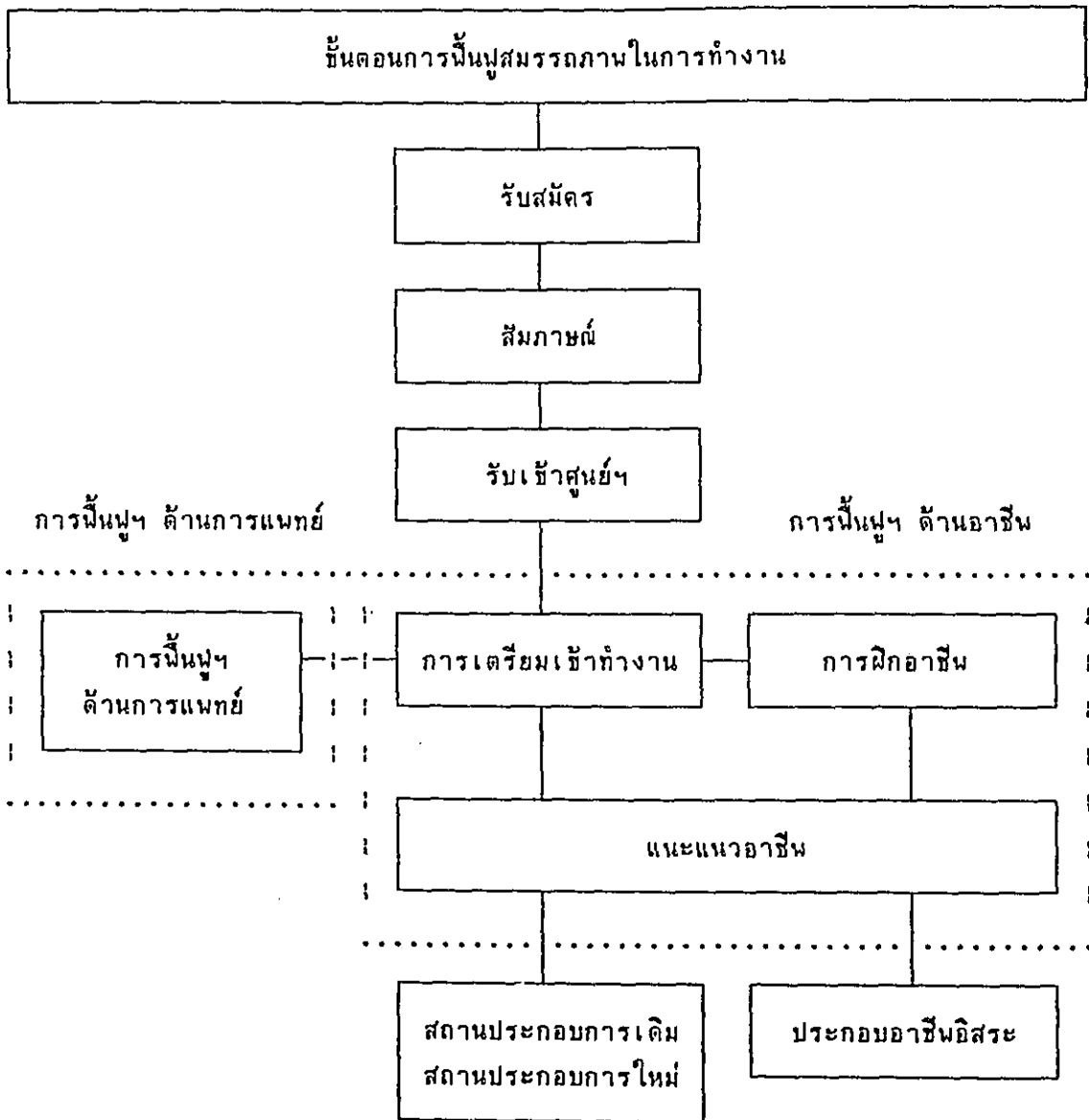
---

การแบ่งส่วนราชการศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน

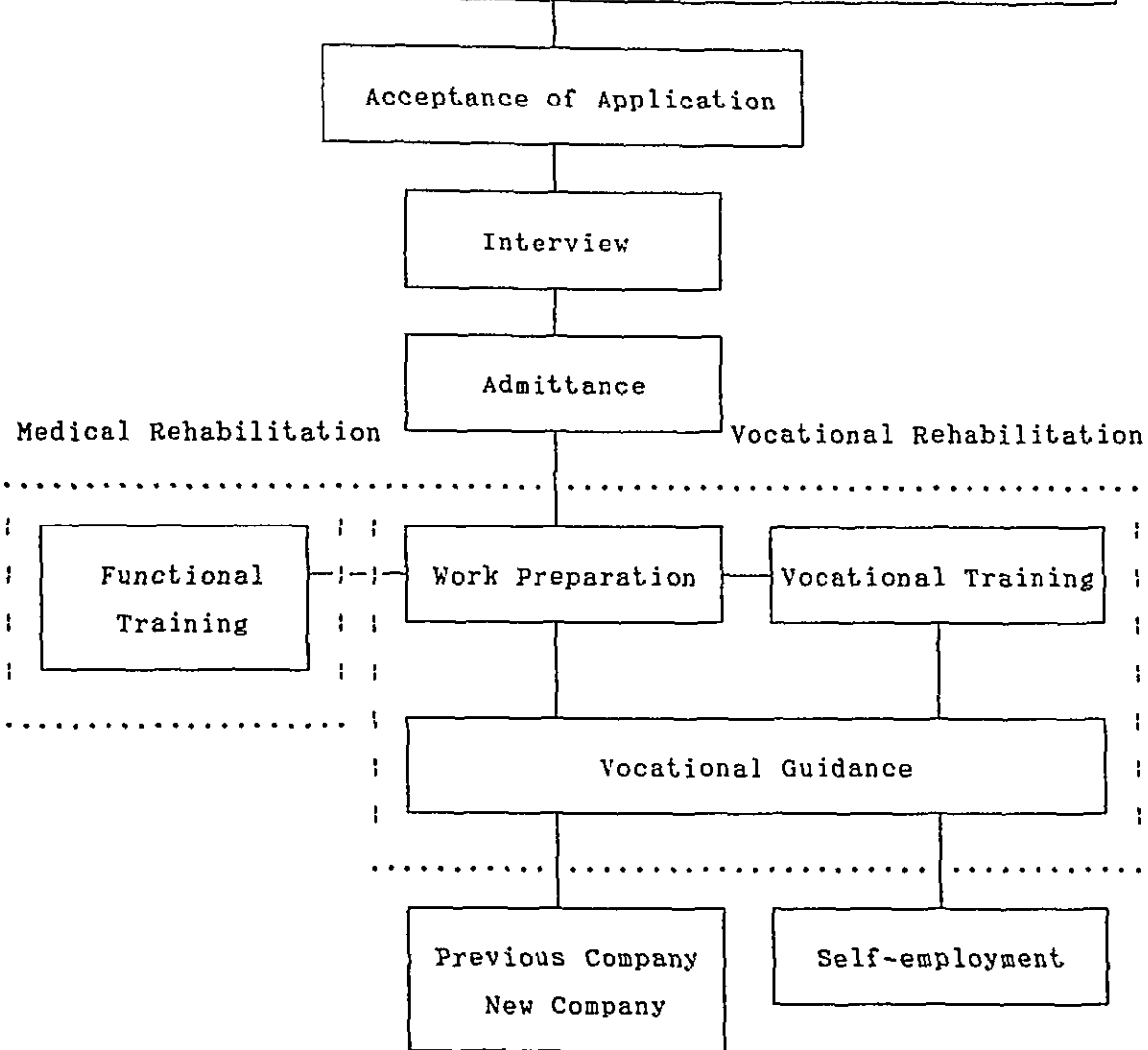


The Organization Chart of the IRC





FLOW CHART OF SERVICES IN IRC



### อัตรากำลัง (Personnel)

ศูนย์ฯ มีเจ้าหน้าที่ปฏิบัติงาน ณ วันที่ 31 มกราคม 2533 รวมทั้งสิ้น 66 คน  
แยกเป็นแต่ละงาน ดังนี้

(Personnel of the IRC as of January 31, 1990 are as follow:)

หัวหน้าศูนย์ฯ (Director of IRC)

- ข้าราชการ (Officer) 1 คน (Person)

งานธุรการ (General Administration)

- ข้าราชการ (Officer) 5 คน (Persons)

- ลูกจ้างประจำ (Employee) 14 คน (Persons)

- ลูกจ้างชั่วคราว (Temporary Employee) 9 คน (Persons)

งานวิชาการ (Planning & Research)

- ข้าราชการ (Officer) 3 คน (Persons)

- ลูกจ้างชั่วคราว (Temporary Employee) 1 คน (Person)

งานประเมินสมรรถภาพและแนะแนว (Vocational Evaluation & Guidance)

- ข้าราชการ (Officer) 4 คน (Persons)

งานฟื้นฟูสมรรถภาพด้านการแพทย์ (Medical Rehabilitation)

- ข้าราชการ (Officer) 10 คน (Persons)

งานเตรียมเข้าทำงาน (Work Preparation)

- ข้าราชการ (Officer) 7 คน (Persons)

- ลูกจ้างประจำ (ครูฝึก) (Assistant Instructor) 5 คน (Persons)

งานฝึกอาชีพ (Vocational Training)

- ข้าราชการ (Officer) 2 คน (Persons)

- ลูกจ้างประจำ (ครูฝึก) (Assistant Instructor) 5 คน (Persons)

#### สรุป (SUM)

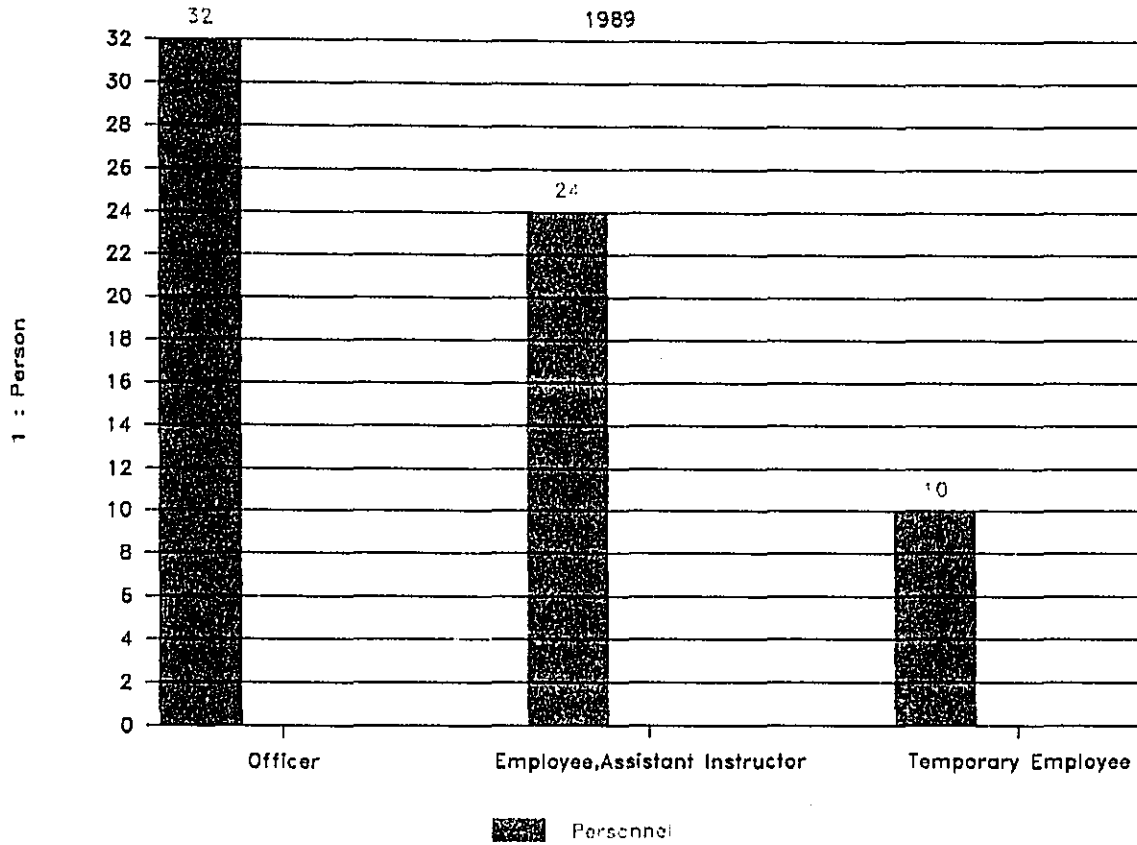
- ข้าราชการ (Officer) 32 คน (Persons)

- ลูกจ้างประจำ (Employee, Assistant Instructor) 24 คน (Persons)

- ลูกจ้างชั่วคราว (Temporary Employee) 10 คน (Persons)

รวม (Total) 66 คน (Persons)

Figure 1 : Personnel of the IRC







ตารางที่ 1 งบประมาณที่ได้รับและจ่ายจริงจำแนกตามหมวดค่าใช้จ่าย, ปีงบประมาณ 2531-2532

Table 1 Approved budget and expenditure by item, Fiscal year 1988-1989

รายการ Item	ปีงบประมาณ Fiscal year		ปีงบประมาณ Fiscal year	
	2531 1988	2532 1989	ได้รับ Approved	จ่ายจริง Expenditure
1. เงินเดือนและค่าจ้างประจำ Wages and salaries	2,163,545.67	2,661,918.00	2,163,545.67	2,661,918.00
2. ค่าจ้างชั่วคราว Wages for temporary employee	53,100.00	60,075.00	53,100.00	60,075.00
3. ค่าตอบแทนใช้สอยและวัสดุ Allowance and material	2,224,820.00	2,263,592.10	2,145,688.43	2,263,592.10
4. ค่าสาธารณูปโภค Charges for water and electricity	166,000.00	486,306.58	434,142.26	486,306.58
5. ค่าครุภัณฑ์ Office furnitures	7,400.00	13,400.00	7,345.00	13,400.00
6. ค่าที่ดินและสิ่งก่อสร้าง Land and construction	669,000.00	600,240.00	669,000.00	600,240.00
รวม Total	5,283,865.67	6,085,531.68	5,472,821.36	6,085,531.68
งบประมาณจากวิเทศสหการ Counterpart Fund from DTEC	854,128.00	766,324.00	815,735.67	703,004.00
รวมทั้งสิ้น Grand total	6,137,993.67	6,851,855.68	6,288,557.03	6,788,535.68

ตารางที่ 2 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2528 - 2532  
 Table 2 The achievement of IRC in 1985 -1989

ลำดับที่ No.	กิจกรรม Activities	2528 1985	2529 1986	2530 1987	2531 1988	2532 1989	รวมทั้งสิ้น Total
1.	สัมภาษณ์ Interview	179	140	228	517	309	1,373
2.	รับเข้า Admit	53	83	120	192	159	607
3.	จบการฟื้นฟู Finish	13	62	108	132	157	472
4.	ประกอบอาชีพกับนายจ้างเดิม Previous employer	10	33	70	83	91	287
5.	ประกอบอาชีพกับนายจ้างใหม่ New employer	2	18	10	7	24	61
6.	ประกอบอาชีพอิสระ Self-employment	1	11	28	42	42	124
7.	ตกกลางคัน Drop out	3	8	12	12	11	46

ตารางที่ 3 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2531 จำนวนความกิจกรรมเป็นรายเดือน  
 Table 3 The IRC achievement in 1988 by activities and month

เดือน Month	ม.ค. Jan	ก.พ. Feb	มี.ค. Mar	เม.ย. Apr	พ.ค. May	มิ.ย. Jun	ก.ค. July	ส.ค. Aug	ก.ย. Sep	ต.ค. Oct	พ.ย. Nov	ธ.ค. Dec	รวม Total
1. สัมภาษณ์ Interview	21	20	25	12	20	6	84	88	50	19	53	55	517
2. รับเข้าใหม่ Admit	14	13	10	6	17	19	18	20	15	16	24	20	192
3. ออกกลางคัน Drop out	1	1	-	-	1	-	-	3	-	1	5	-	12
4. จบการขึ้นผู้สมัครทบทวน Finish	5	5	4	7	6	5	3	5	15	8	8	12	83
4.1 นายจ้างเดิม Previous employer	1	1	1	-	-	-	1	-	-	1	-	2	7
4.2 นายจ้างใหม่ New employer	1	2	4	2	5	2	1	-	10	7	3	4	41
4.3 ประเภทอาชีพอิสระ Self employed	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
4.4 สาขาอื่น ๆ Transfer to other course	7	8	9	9	11	8	5	5	25	16	11	18	132
รวม (4.1 - 4.4) Total	64	69	68	67	75	80	92	105	109	103	113	117	1,062
5. จำนวนผู้เข้ารับการขึ้นผู้ในแต่ละเดือน Trainees in each month													

ตารางที่ 3 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2531 จำนวนตามกิจกรรมเป็นรายเดือน  
 Table 3 The IRC achievement in 1988 by activities and month

เดือน Month	มค. Jan	กพ. Feb	มีค. Mar	เมษ. Apr	พค. May	มิย. Jun	กค. July	สค. Aug	กย. Sep	ตค. Oct	พย. Nov	ธค. Dec	รวม Total
6. ประเภทการฟื้นฟู Type of rehabilitation													
6.1 ด้านแพทย์ Medical	47	52	52	52	52	61	69	77	81	62	77	81	763
6.2 งานเตรียม Work Preparation	21	31	30	28	39	45	47	66	70	67	67	78	589
6.3 งานฝึกอาชีพ Vocational Training	28	28	25	31	34	35	36	39	46	44	43	42	429

ตารางที่ 4 แสดงผลการปฏิบัติงานศูนย์ฯ ปี 2532 จำนวนตามกิจกรรมเป็นรายเดือน  
 Table 4 The IRC achievement in 1989 by activities and month

เดือน Month	มค. Jan	กพ. Feb	มีค. Mar	เมษ. Apr	พค. May	มิถ. Jun	กค. July	สค. Aug	กย. Sep	ตค. Oct	พย. Nov	ธค. Dec	รวม Total
1. สัมภาษณ์ Interview	29	12	41	17	14	25	16	19	15	26	48	43	305
2. รับเข้าใหม่ Admit	9	11	16	5	7	16	8	14	8	18	22	25	159
3. ออกกลางคัน Drop out	1	-	1	3	2	-	1	-	3	-	-	-	11
4. จบการขึ้นสู่สมรรถภาพ Finish	12	8	7	7	9	6	1	4	5	2	14	14	89
4.1 นายจ้างเดิม Previous employer	1	5	1	1	1	1	2	1	1	3	3	2	22
4.2 นายจ้างใหม่ New employer	4	5	5	5	7	-	2	2	5	2	1	3	41
4.3 ปะทะจนย้ายสิทธิ์ Self employed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
4.4 ส่วยอื่น ๆ Transfer to other course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
รวม (4.1 - 4.4) Total	17	18	13	13	17	7	5	7	11	7	18	18	153
5. จำนวนผู้เข้ารับการฝึกในแต่ละเดือน Trainees in each month	104	101	96	87	81	79	81	87	86	91	107	119	1,121

ตารางที่ 4 แสดงผลการปฏิบัติงานสำคัญของปี 2532 จำแนกตามกิจกรรมเป็นรายเดือน

Table 4 The IRC achievement in 1989 by activities and month

เดือน Month	มค. Jan	กพ. Feb	มีค. Mar	เมษ. Apr	พค. May	มิย. Jun	กค. July	สค. Aug	กย. Sep	ตค. Oct	พย. Nov	ธค. Dec	รวม Total
6. ประเภทการฟื้นฟู Type of rehabilitation													
6.1 ทางการแพทย์ Medical	80	68	62	43	43	54	51	64	68	68	77	83	761
6.2 งานเตรียม Work Preparation	69	68	56	50	40	42	44	58	67	64	77	81	716
6.3 งานฝึกอาชีพ Vocational Training	36	37	41	38	38	35	34	29	28	32	33	39	420

ตารางที่ 5 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531 จำแนกตามเพศและอายุ  
 Table 5 Number of IRC Trainees in 1988 by age and sex

อายุของผู้เข้ารับการฝึก (ปี) Age of Trainees (year)	จำนวนผู้เข้ารับการฝึก Number of Trainees		
	ชาย Male	หญิง Female	รวม Total
12 - 15	-	2	2
16 - 20	43	11	54
21 - 25	53	12	65
26 - 30	31	5	36
31 - 35	8	7	15
36 และมากกว่า (and over)	16	4	20
รวม Total	151	41	192



ตารางที่ 6 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532 จำนวนตามเพศและอายุ  
 Table 6 Number of IRC trainees in 1989 by age and sex

อายุของผู้เข้ารับการฝึก (ปี) Age of trainees (year)	จำนวนผู้เข้ารับการฝึก Number of trainees		
	ชาย Male	หญิง Female	รวม Total
12 - 15	2	-	2
16 - 20	51	14	65
21 - 25	49	3	52
26 - 30	19	4	23
31 - 35	7	3	10
36 และมากกว่า (and over)	4	3	7
รวม Total	132	27	159

ตารางที่ 7 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531 จำแนกตามเพศ สถานภาพการสมรสและระดับการศึกษา  
 Table 7 Number of trainees in 1988 by sex, marital status and level of educational attainment

ระดับการศึกษา Level of educational attainment	สถานภาพการสมรส Marital status					
	ชาย Male		หญิง Female		รวม Total	
	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married
1. ไม่ได้รับการศึกษา None	2	1	1	2	3	3
2. ประถมต้น First Primary	25	25	7	8	32	33
3. ประถมปลาย Last Primary	43	3	14	2	57	5
4. มัธยมต้น First Secondary	17	9	2	1	19	10
5. มัธยมปลาย Last Secondary	8	3	3	-	11	3
6. ปวช. โสดวิชาที่พหุชั้นต้น (ปวช) Vocational Certificate	5	5	-	-	5	5
7. ปวช. โสดวิชาที่พหุชั้นสูง (ปวช) Upper Vocational Certificate	3	-	-	-	3	-
8. ปริญญาตรี Bachelor	-	1	1	-	1	1
9. อื่น ๆ Other	-	1	-	-	-	1

ตารางที่ 7 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 จำนวนคนเพศ สถานภาพการสมรสและระดับการศึกษา  
 Table 7 Number of trainees in 1988 by sex, marital status and level of educational attainment

ระดับการศึกษา Level of educational attainment	สถานภาพการสมรส Marital status					
	ชาย Male		หญิง Female		รวม Total	
	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married
10. รวม Total	103	48	28	13	131	61

ตารางที่ 8 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532 จำนวนตามเพศ สถานภาพการสมรสและระดับการศึกษา

Table 8 Number of trainees in 1989 by sex, marital status and level of educational attainment

ระดับการศึกษา Level of educational attainment	สถานภาพการสมรส Marital status							
	ชาย Male		หญิง Female		รวม Total			
	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married
1. ไม่ได้รับการศึกษา None	-	1	-	-	-	-	-	1
2. ประถมต้น First Primary	16	15	4	7	20	22		
3. ประถมปลาย Last Primary	48	10	10	-	58	10		
4. มัธยมศึกษา First Secondary	13	3	4	1	17	4		
5. มัธยมศึกษา Last Secondary	11	3	1	-	12	3		
6. ประกาศนียบัตร Vocational Certificate	4	2	-	-	4	2		
7. ประกาศนียบัตร Upper Vocational Certificate	4	-	-	-	4	-		
8. ปริญญาตรี Bachelor	-	-	-	-	-	-		
9. อื่น ๆ Other	1	1	-	-	1	1		

ตารางที่ 8 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฝึกอบรม ปี 2532 จำแนกตามเพศ สถานภาพการสมรสและระดับการศึกษา  
 Table 8 Number of trainees in 1989 by sex, marital status and level of educational attainment

ระดับการศึกษา Level of educational attainment	สถานภาพการสมรส Marital status					
	ชาย Male		หญิง Female		รวม Total	
	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married	โสด Single	สมรส Married
10. รวม Total	97	35	19	8	116	43

ตารางที่ 9 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 จำนวนตามเพศและลักษณะความพิการ  
 Table 9 Number of trainees in 1988 by age and type of disability

ลักษณะความพิการ Type of disability	จำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู Number of trainees		
	ชาย Male	หญิง Female	รวม Total
ตา Eye	1	-	1
หู Ear	42	12	54
นิ้ว Finger	54	17	71
มือ Hand	21	5	26
แขน Arm	14	1	15
ขา Leg	7	1	8
เท้า Foot	2	2	4
หลัง Back	8	2	10
พิการหลายส่วน Multipart	2	1	3
อื่น ๆ Other			
รวม Total	151	41	192

ตารางที่ 10 แสดงจำนวนผู้พิการที่รับการฟื้นฟู ปี 2532 จำแนกตามเพศและลักษณะความพิการ  
 Table 10 Number of trainees in 1989 by age and type of disability

ลักษณะความพิการ Type of disability	จำนวนผู้พิการที่ฟื้นฟู Number of trainees		
	ชาย Male	หญิง Female	รวม Total
ตา Eye	-	-	-
ขา Leg	39	11	50
นิ้ว Finger	38	12	50
มือ Hand	21	3	24
แขน Arm	11	-	11
ขา Leg	7	1	8
เท้า Foot	4	-	4
หลัง Back	10	-	10
พิการหลายส่วน Multipart	2	-	2
อื่น ๆ Other			
รวม Total	132	27	159

ตารางที่ 11 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531

Table 11 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1988

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability											
		ตา Eye	นิ้ว Finger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part	อื่น ๆ Other	รวม Total		
1.	เครื่องปั่น Press machine	-	10	11	1	-	-	-	-	-	-	-	22
2.	เครื่องตัด Cutter	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	5
3.	เครื่องบด Grinder	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
4.	เครื่องตี Calendar machine	-	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	13
5.	เครื่องพิมพ์ Printing machine	-	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	9
6.	เครื่องจักรงานไม้ Wood working machine	-	2	1	1	-	-	-	-	1	-	-	5
7.	เครื่องอัด Power press	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
8.	เครื่องส่วน Drill	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
9.	เครื่องปั่นฝ้าย Spinner, Cotton	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2



ตารางที่ 11 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531  
 Table 11 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1988

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability								รวม Total	
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Hand	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part		ส่วน อื่น ๆ Other
10.	เครื่องไถ Plowing machine	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
11.	เครื่องผสมเมล็ด Plastic mixing machine	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
12.	เครื่องดูดนม Chaff sucking machine	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
13.	เครื่องอบ Oven	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
14.	เครื่องผสมน้ำ, ขาง Cotton tyre mixing machine	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
15.	เครื่องโม่ Mill	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
16.	เครื่องผ่าหนัง Splitting machine	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
17.	เครื่องทากาว Label machine	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
18.	เครื่องกวาดเรือ Winch Boat	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
19.	เครื่องฉีดเมล็ด Plastic injector	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2

ตารางที่ 11 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531  
 Table 11 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1988

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability											
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part	อื่น ๆ Other	รวม Total		
20.	เครื่องทุบ Punching machine	-	7	5	2	-	-	-	-	-	-	-	14
21.	เครื่องตียาง Beater Rubber	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
22.	เผาเครื่องจักร Spindle	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
23.	เครื่องนวดคั้นคัต Kneading machine	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
24.	ตกจากที่สูง Fall from the elevation	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
25.	ใบเลื่อย, ใบมีด, ขอบนาบ Saw blade, Knife blade	-	7	8	-	1	1	-	-	-	-	-	17
26.	ใบมีดตัดยาง Propeller	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
27.	เส้นลวด, เหล็กพัน Stuck by wires, iron	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
28.	เฟืองเครื่องจักร Gear machine	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	3
29.	ไฟฟ้าช็อต ๓๓ Electricity	-	-	-	3	-	1	-	-	2	1	-	7

ตารางที่ 11 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531

Table 11 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1988

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability									
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part	อื่น ๆ Other	รวม Total
30.	ยกของหนัก Lift heavy object	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
31.	ลวดสลิง เส้น Wire rope, string	-	-	-	2	1	1	-	-	-	4
32.	วัสดุชนตัว, กระแทก Hit against by material	-	1	1	1	5	-	2	1	-	11
33.	วัสดุเข้าตา Material hurtle into eyes	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
34.	สวมงาน Belt	-	1	3	2	-	-	-	-	-	6
35.	ตกลง Fall down	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
36.	ถังแก๊สออกซิเจนระเบิด Explosive thinner and Oxygen cylinder	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
37.	น้ำร้อน ไอน้ำ ไนเตรต Burn by boiled-water, Steam or fire, asphalt	-	-	1	2	-	-	-	2	-	6
38.	ลูกกลิ้ง Roller	-	4	1	1	-	-	-	-	-	6

ตารางที่ 11 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2531

Table 11 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1988

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability									
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part	อื่น ๆ Other	รวม Total
39.	อุบัติเหตุรถยนต์ Car accident	-	-	-	2	-	-	-	1	2	5
40.	เครื่องจักร (ไม่ระบุประเภท) Machine (identify)	-	5	12	4	1	3	-	-	-	25
41.	ไม่ระบุสาเหตุ Not identify	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	รวม Total	1	54	71	26	15	8	4	10	3	192

ตารางที่ 12 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532  
 Table 12 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1989

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability								รวม Total		
		ตา Eye	นิ้ว Finger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part		อื่น ๆ Other	
1.	เครื่องปั๊ม Press machine	-	16	13	2	-	-	-	-	-	-	31
2.	เครื่องตัด Cutter	-	2	5	1	-	-	-	-	-	-	8
3.	เครื่องบด Grinder	-	1	1	1	-	-	-	1	-	-	4
4.	เครื่องวัด Calender machine	-	2	5	-	1	1	-	-	-	-	9
5.	เครื่องหมุน Printing machine	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	4
6.	เครื่องจักรงานไม้ Wood working machine	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
7.	เครื่องกด Power press	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	4
8.	เครื่องไสไม้ Planing machine	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
9.	เครื่องสี Mill	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1

ตารางที่ 12 สาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532  
 Table 12 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1989

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability									
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi- part	อื่น ๆ Other	รวม Total
10.	เครื่องล้างใบ Blow room machine	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
11.	เครื่องฉีดพลาสติก Plastic injector	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
12.	เครื่องล้าง, ไม้ Picker machine, Rubber pick	-	-	4	-	-	-	-	-	-	4
13.	ปั้นจั่น Crane	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
14.	ตกจากสูง Fall from the elevation	-	1	-	-	-	1	-	-	1	3
15.	ใบเลื่อย, ใบมีด, ขงหมา Saw blade, knife blade	-	4	1	3	-	1	-	1	-	10
16.	ใบมีดเลื่อย Propeller	-	1	2	1	-	-	-	-	-	4
17.	ไฟฟ้าช็อต ชั่ว Electrical short circuit	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2
18.	ยกของหนัก Lift heavy object	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
19.	ลวดสลิง, เชือก Wire rope, string	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1

ตารางที่ 12 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532

Table 12 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1989

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability								รวม Total	
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part		อื่น ๆ Other
20.	วัสดุชนกับ, กะเทก Hit against by materia	-	5	1	1	6	2	-	1	-	16
21.	วัสดุเข้าตา Material hurtle into eyes	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22.	ส่วนงาน Belt	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
23.	ตกลง Fall down	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
24.	ถังทินเนอร์ แลคเกอร์ นกใส่ระเบิด Explosed (thinner lacquer gas)	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
25.	น้ำร้อน ไอน้ำ ไฟจาก Burn by boiled-water, Steam or fire	-	-	1	-	-	-	-	1	-	2
26.	ลูกกลิ้ง, ลูกหมุน, ลูกตุ้ม Roller, barbed-wire, pendulum	-	2	4	-	1	1	-	-	-	8
27.	อุบัติเหตุรถชน Car accident	-	-	-	3	2	1	1	3	-	10

ตารางที่ 12 แสดงสาเหตุและลักษณะความพิการของผู้เข้ารับการฝึก ปี 2532  
 Table 12 Cause and type of disability of IRC Trainees, 1989

ลำดับ ที่ No	สาเหตุ Cause	ลักษณะความพิการ Type of Disability								รวม Total		
		ตา Eye	นิ้ว Fin- ger	มือ Hand	แขน Arm	ขา Leg	เท้า Foot	หลัง Back	หลาย ส่วน Multi part		อื่น ๆ Other	
28.	เครื่องปั่นผ้า, แป้ง Spinning machine , cotton flour	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
29	เครื่องทอผ้า Loom	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
30	เครื่องจักรปั่นผ้าใบ Roller machine	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
31.	เครื่องจักร (ไม่ระบุประเภท) Machine (not identify)	-	6	5	5	-	1	-	-	-	1	20
32.	ไม่ระบุสาเหตุ Not identify	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	รวม Total	-	50	50	24	11	6	4	10	2	159	



ตารางที่ 13 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการบำบัด ปี 2531 - 2532 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 13 Number of trainees who get Physical Therapy in 1988 - 1989 by month

เดือน Month	ปีปฏิทิน Calendar year	2531 1988		2532 1989	
		คน * Case *	คน ** Case**	คน * Case *	คน ** Case**
	จำนวน Number				
มกราคม	January	12	40	9	68
กุมภาพันธ์	February	13	44	11	59
มีนาคม	March	10	45	16	57
เมษายน	April	6	41	4	41
พฤษภาคม	May	14	44	9	39
มิถุนายน	June	19	53	15	49
กรกฎาคม	July	17	64	8	48
สิงหาคม	August	19	63	13	57
กันยายน	September	15	64	6	52
ตุลาคม	October	11	56	15	54
พฤศจิกายน	November	23	67	21	57
ธันวาคม	December	18	71	25	70
รวม	Total	177	652	152	651

หมายเหตุ: \* ผู้เข้ารับการฟื้นฟูใหม่แต่ละเดือน  
 Remarks: \* New trainees in each month  
 \*\* ผู้เข้ารับการฟื้นฟูทั้งหมดในแต่ละเดือน  
 \*\* All trainees in each month

ตารางที่ 14 แสดงการให้บริการด้านกายภาพบำบัด ปี 2531 - 2532 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 14 Physical Therapy service in 1988 - 1989 by month

เดือน Month	ปีปฏิทิน Calendar year		รวม Total
	2531 1988	2532 1989	
	จำนวน Number	ครั้ง Time	ครั้ง Time
มกราคม	January	441	803
กุมภาพันธ์	February	421	604
มีนาคม	March	388	684
เมษายน	April	320	415
พฤษภาคม	May	439	367
มิถุนายน	June	498	565
กรกฎาคม	July	384	491
สิงหาคม	August	576	739
กันยายน	September	669	420
ตุลาคม	October	620	469
พฤศจิกายน	November	878	666
ธันวาคม	December	639	625
รวม	Total	6,273	6,848
			13,121

ตารางที่ 15 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ด้านอาชีพบำบัด ปี 2531 - 2532 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 15 Number of trainees who get Occupational Therapy in 1988 - 1989 by month

เดือน Month	ปีปฏิทิน Calendar year	2531 1988		2532 1989	
		คน Case #	คน ** Case**	คน Case #	คน ** Case**
มกราคม January		11	35	9	65
กุมภาพันธ์ February		12	37	9	60
มีนาคม March		8	39	15	57
เมษายน April		6	37	4	42
พฤษภาคม May		16	40	10	39
มิถุนายน June		17	42	13	44
กรกฎาคม July		16	53	7	40
สิงหาคม August		19	65	11	50
กันยายน September		14	60	6	47
ตุลาคม October		11	57	15	47
พฤศจิกายน November		20	66	21	66
ธันวาคม December		16	60	20	70
รวม Total		166	591	140	627

หมายเหตุ: \* ผู้เข้ารับการฟื้นฟูใหม่ในแต่ละเดือน  
 Remarks: \* New trainees in each month  
 \*\* ผู้เข้ารับการฟื้นฟูทั้งหมดในแต่ละเดือน  
 \*\* All trainees in each month

ตารางที่ 16 แสดงการให้บริการด้านอาชีวบำบัด ปี 2531 - 2532 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 16 Occupational Therapy service in 1988 - 1989 by month

เดือน Month	ปีปฏิทิน Calendar year		รวม Total	
	2531 1988	2532 1989		
	จำนวน Number	ชั่วโมง Time	ชั่วโมง Time	
มกราคม January		364	647	1,011
กุมภาพันธ์ February		346	721	1,067
มีนาคม March		455	770	1,225
เมษายน April		355	374	729
พฤษภาคม May		402	375	777
มิถุนายน June		516	484	1,000
กรกฎาคม July		512	386	898
สิงหาคม August		942	698	1,640
กันยายน September		752	545	1,297
ตุลาคม October		703	550	1,253
พฤศจิกายน November		896	748	1,644
ธันวาคม December		675	747	1,422
รวม Total		6,918	7,045	13,963

ตารางที่ 17 แสดงจำนวนผู้เข้ารับบริการด้านกายอุปกรณ์และผ่าตัด ปี 2531 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 17 Number of trainees who get Prosthesis service and Operation in 1988 by month

เดือน Month	กิจกรรม Activity	ผ่าตัด Operation	กายอุปกรณ์ Prosthesis and Orthosis	
			ทำ Making	ซ่อม Repairing
		คน Case	คน Case	คน Case
มกราคม January		-	1	2
กุมภาพันธ์ February		-	-	5
มีนาคม March		-	4	6
เมษายน April		-	-	4
พฤษภาคม May		-	2	1
มิถุนายน June		8	9	6
กรกฎาคม July		10	2	6
สิงหาคม August		5	3	5
กันยายน September		12	11	6
ตุลาคม October		-	-	2
พฤศจิกายน November		-	-	-
ธันวาคม December		3	8	-
รวม Total		38	40	43

ตารางที่ 18 แสดงจำนวนผู้เข้ารับบริการด้านกายอุปกรณ์และผ่าตัด ปี 2532 จำแนกเป็นรายเดือน  
 Table 18 Number of trainees who get Prosthesis service and Operation in 1989 by month

เดือน Month	กิจกรรม Activity	ผ่าตัด Operation	กายอุปกรณ์ Prosthesis and Orthosis	
			ทำ Making	ซ่อม Repairing
		คน Case	คน Case	คน Case
มกราคม	January	15	5	5
กุมภาพันธ์	February	8	-	-
มีนาคม	March	6	-	-
เมษายน	April	3	1	1
พฤษภาคม	May	1	-	-
มิถุนายน	June	14	1	2
กรกฎาคม	July	8	-	-
สิงหาคม	August	-	5	-
กันยายน	September	13	5	2
ตุลาคม	October	8	9	3
พฤศจิกายน	November	9	10	1
ธันวาคม	December	5	3	3
รวม	Total	90	39	17

ตารางที่ 19 แสดงจำนวนเครื่องช่วยและเครื่องตาม จัดบริการในปี 2531 - 2532 จำนวนเป็นรายเดือน  
 Table 19 Number of aid devices and splints supply in 1988 - 1989 by month

เดือน Month	ปีปฏิทิน Calendar year	2531 1988		2532 1989		
		จำนวน Number	เครื่องช่วย Aid device	เครื่องตาม Splinting	เครื่องช่วย Aid device	เครื่องตาม Splinting
มกราคม	January		3	1	-	3
กุมภาพันธ์	February		1	1	-	2
มีนาคม	March		1	6	-	8
เมษายน	April		1	4	1	3
พฤษภาคม	May		-	5	1	2
มิถุนายน	June		1	6	-	4
กรกฎาคม	July		-	1	-	5
สิงหาคม	August		-	3	1	5
กันยายน	September		1	9	2	11
ตุลาคม	October		1	3	2	7
พฤศจิกายน	November		-	1	-	7
ธันวาคม	December		1	6	-	10
รวม Total			10	46	7	67

ตารางที่ 20 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบอาชีพปี 2531 จำนวนตามเพศและสาขางาน  
 Table 20 Number of trainees and occupation in 1988 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประกอบอาชีพ Occupation				ส่งเข้าอื่น ๆ Transfer to other course		
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/จเดิม Previous employer		น/จใหม่ New employer		ชาย M	หญิง F	
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F			
1. งานเตรียมเข้าทำงาน Work Preparation											
- สาขาเครื่องกล Machine Course	11	-	6	-	5	-	-	1	-	-	-
- สาขาโลหะ Metal Course	30	-	19	-	15	-	1	2	-	1	-
- สาขาไม้ Wood Course	13	1	8	-	8	-	-	-	-	-	-
- สาขาประกอบชิ้นส่วน Assembly Course	43	1	26	-	20	-	-	6	-	-	-
- สาขาช่างงาน Clerical Course	24	6	18	6	14	5	1	3	1	-	-
- สาขาสิ่งประดิษฐ์ Handicraft Course	7	30	2	10	2	10	-	-	-	-	-
รวม Total	128	38	79	16	64	15	2	12	1	1	-



ตารางที่ 20 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบอาชีพปี 2531 จำนวนตามเพศและสาขาวิชา  
 Table 20 Number of trainees and occupation in 1988 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประกอบอาชีพ Occupation				ต่อสาขาลื่น ๆ Transfer to other course		
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/จเดิม Previous employer		น/จใหม่ New employer		ดิษฐ์ Self employed	ชาย M	หญิง F
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F			
2. งานฝึกอาชีพ Vocational Training											
- สาขาช่างเครื่องกล Machine Course	2	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-
- สาขาช่างโลหะแผ่นและสีโลหะ Sheet Metal & Painting Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างเชื่อมโลหะ Welding Course	3	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-
- สาขาช่างไม้เฟอร์นิเจอร์ Furniture Course	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
- สาขาช่างไม้ประติมากรรม Wood Craft Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างเครื่องขนาดเล็ก Small Engine Course	15	-	11	-	-	-	-	-	11	-	-
- สาขาช่างสำนักงาน Clerical Work Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างพิมพ์ Typing Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ตารางที่ 20 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบอาชีพปี 2531 จำแนกตามเพศและสาขางาน  
 Table 20 Number of trainees and occupation in 1988 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประกอบอาชีพ Occupation				ต่อสาขาอื่น ๆ Transfer to other course			
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/จเดิม Previous employer		น/จใหม่ New employer		ชาย M	หญิง F		
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F				
2. งานฝึกอาชีพ Vocational Training												
- สาขาช่างพิมพ์ Light Printing Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขางานอิเล็กทรอนิกส์ Electronics Course	10	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขางานซ่อมเครื่องใช้ไฟฟ้า Electric Course	11	-	8	-	-	-	-	6	-	-	-	-
- สาขางานตัดเย็บเสื้อผ้า Dress-Making Course	1	4	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-
- สาขางานเย็บจักรอุตสาหกรรม Sewing Course	5	7	3	7	-	1	-	1	3	5	-	-
รวม Total	47	12	29	8	3	1	3	2	23	5	-	-
รวมทั้งสิ้น Grand Total	175	50	108	24	67	16	5	2	35	6	1	-

ตารางที่ 21 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบอาชีพปี 2532 จำแนกตามเพศและสาขาวิชา

Table 21 Number of trainees and occupation in 1989 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประเภทอาชีพ Occupation				ส่งสาขากัน ๆ Transfer to other course		
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/จเดิม Previous employer		น/จใหม่ New employer		ชาย M	หญิง F	
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F			ชาย M
1. งานเตรียมเข้าทำงาน Work Preparation	10	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-
- สาขาวิชาเครื่องกล Machine Course	24	-	21	-	16	-	1	-	4	-	-
- สาขาวิชาโลหะ Metal Course	9	-	9	-	7	-	1	-	1	-	-
- สาขาวิชาไม้ Wood Course	51	-	21	-	16	-	1	-	4	-	-
- สาขาวิชาประกอบชิ้นส่วน Assembly Course	24	7	23	6	20	4	-	1	3	-	1
- สาขาวิชาช่างงาน Clerical Course	9	19	4	15	2	12	-	-	2	-	-
- สาขาวิชาสิ่งประดิษฐ์ Handicraft Course	2	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-
- ฝึกด้านหน้า Home Program											
รวม Total	129	26	84	21	67	16	3	4	14	-	1

ตารางที่ 21 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู และลักษณะการประกอบอาชีพที่มี 2532 จำนวนตามเพศและสาขาวิชา  
 Table 21 Number of trainees and occupation in 1989 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประเภทอาชีพ Occupation				ส่งสาขารับ Transfer to other course		
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/จเดิม Previous employer		น/จใหม่ New employer		อิสระ Self employed	ชาย M	หญิง F
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F			
2. งานฝึกอาชีพ Vocational Training											
- สาขาช่างเครื่องกล Machine Course	4	-	3	-	-	-	2	-	1	-	-
- สาขาช่างโลหะแผ่นและสีโลหะ Sheet Metal & Painting Course	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างเชื่อมโลหะ Welding Course	3	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-
- สาขาช่างไม้เฟอร์นิเจอร์ Furniture Course	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างไม้ประติมากรรม Wood Craft Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างเครื่องขนาดเล็ก Small Engine Course	12	-	10	-	-	-	2	-	8	-	-
- สาขาช่างสำนักงาน Clerical Work Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
- สาขาช่างพิมพ์ Typing Course	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ตารางที่ 21 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ผู้จบการฟื้นฟู ผู้จบการฝึกอาชีพ และลักษณะการประกอบอาชีพปี 2532 จำนวนตามเพศและสาขาวิชา  
 Table 21 Number of trainees and occupation in 1989 by sex and course

การฟื้นฟูด้านอาชีพ Vocational Rehabilitation	เข้า Admit		จบ Finish		ประกอบอาชีพ Occupation				ส่งสาขาคอื่น ๆ Transfer to other course			
	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	น/ว/เดิม Previous employer		น/ว/ใหม่ New employer		อิสระ Self employed			
					ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F	ชาย M	หญิง F		
2. งานฝึกอาชีพ Vocational Training												
- สาขางานพิมพ์ Light Printing Course	1	-	5	1	-	-	1	-	4	1	-	-
- สาขางานอิเล็กทรอนิกส์ Electronics Course	6	-	9	-	-	-	2	-	7	-	-	-
- สาขางานซ่อมเครื่องใช้ไฟฟ้า Electric Course	1	7	1	7	-	2	1	3	-	2	-	-
- สาขางานตัดเย็บเสื้อผ้า Dress-Making Course	3	5	4	5	-	3	2	-	2	2	-	-
- สาขางานเย็บปักถักรูดสำหรับ Sewing Course												
รวม Total	33	12	35	13	1	5	12	3	22	5	-	-
รวมทั้งสิ้น Grand Total	162	38	119	34	68	21	15	7	36	5	-	1

ตารางที่ 22 แสดงจำนวนผู้พำนักถาวรในเขตเมืองปี 2531 - 2532 จำนวนความเคลื่อนไหว  
 Table 22 Number of IRC trinees in 1988 - 1989 by location of domicile

ภาคกลาง Region/Province	ปีปฏิทิน Calendar year		
	2531 1988	2532 1989	รวม Total
	ภาคกลาง Central Region	20	14
1. กรุงเทพฯ Bangkok	3	-	3
2. กาญจนบุรี Kanchanaburi	1	-	1
3. ชัยภูมิ Chanthaburi	1	-	1
4. ฉะเชิงเทรา Chachoengsao	2	3	5
5. ชลบุรี Chonburi	2	1	3
6. ชัยนาท Chainat	-	1	1
7. ตราด Trad	5	3	8
8. นนทบุรี Nonthaburi	1	1	2
9. นครปฐม Nakhon Pathom	-	3	3
10. นครนายก Nakhon Nayok	12	3	15
11. ปทุมธานี Pathum Thani	2	1	3
12. ประชาชนสัมพันธ์ Prachuab Kirikhan	6	6	12
13. ปราจีนบุรี Prachinburi	1	-	1
14. เพชรบุรี Petchaburi	6	3	9
15. มณฑลศรีอยุธยา Pranakhonsriyayutaya	1	1	2
16. ราชบุรี Ratchaburi	1	1	2
17. ระยอง Rayong	4	1	5
18. ลพบุรี Lopburi	10	7	17
19.สมุทรปราการ Samut Prakan	-	3	3
20.สมุทรสงคราม Samut Songkham	4	-	4
21.สมุทรสาคร Samut Sakhon	1	2	3
22. สิงห์บุรี Singburi			

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
23. สุพรรณบุรี Suphanburi		5	1	6
24. สระบุรี Saraburi		-	4	4
25. อ่างทอง AngThong		1	1	2
รวม Total		89	60	149
ภาคเหนือ Northern Region				
1. กำแพงเพชร Kamphang Phet		1	2	3
2. เชียงใหม่ Chieng Mai		1	1	2
3. เชียงราย Chieng Rai		3	2	5
4. ตาก Tak		1	-	1
5. นครสวรรค์ Nakhon Savan		5	3	8
6. พะเยา Payao		2	2	4
7. พิจิตร Pichit		4	1	5
8. พิษณุโลก Pitsanulok		3	2	5
9. เพชรบูรณ์ Petchaboon		2	4	6
10. อุตรดิตถ์ Phrae		-	1	1
11. ลำปาง Lampang		3	-	3
12. ลำพูน Lamphoon		-	1	1
13. สุโขทัย Sukhothai		-	1	1
14. อุตรดิตถ์ Uttaradit		-	1	1
รวม Total		25	21	46

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
ภาคใต้ Southern Region				
1. ชุมพร	Chumphon	3	1	4
2. ตรัง	Trang	-	2	2
3. นครศรีธรรมราช	Nakhonsri Thammarat	3	3	6
4. ปัตตานี	Pattani	-	1	1
5. นนทบุรี	Pangnga	1	-	1
6. นนทบุรี	Phatthalung	1	-	1
7. สุราษฎร์ธานี	Surathani	1	-	1
8. สงขลา	Songkla	1	-	1
รวม	Total	10	7	17
ภาคตะวันออกเฉียงเหนือ Northeastern Region				
1. กาฬสินธุ์	Kalasin	5	3	8
2. ขอนแก่น	Khon Kaen	6	5	11
3. ชัยภูมิ	Chalyaphum	5	7	12
4. นครพนม	Nakhon Phanom	1	4	5
5. นครราชสีมา	Nakhon Ratchasima	10	5	15
6. นครราชสีมา	Nong Khai	2	3	5
7. บุรีรัมย์	Buri Ram	8	6	14
8. บุรีรัมย์	Mukdahan	-	2	2
9. มหาสารคาม	Mahasarakham	2	2	4
10. สุรินทร์	Yasolhon	1	2	3
11. ร้อยเอ็ด	Roi-Et	2	8	10



ภาค/จังหวัด Region/Province	ปีปฏิทิน Calendar year		
	2531 1988	2532 1989	รวม Total
	12. ศรีสะเกษ Srisaket	7	3
13. สกลนคร Sakon Nakhon	3	6	9
14. สุรินทร์ Surin	9	2	11
15. อุตรดิตถ์ Udon Thani	4	7	11
16. อุบลราชธานี Ubon Ratchathani	3	6	9
รวม Total	68	71	139
รวมทั้งสิ้น Grand total	192	159	351

ตารางที่ 23 แสดงจำนวนผู้เข้ารับการฟื้นฟู ปี 2531 - 2532 จำนวนตามเขตที่ตั้งสภาปกครอง  
 Table 23 Number of IRC trainees in 1988 - 1989 by location of Establishment

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
ภาคกลาง Central Region				
1. กรุงเทพฯ Bangkok		79	82	161
2. กาญจนบุรี Kanchanaburi		2	1	3
3. จันทบุรี Chanthaburi		2	-	2
4. ฉะเชิงเทรา Chachoengsao		-	3	3
5. ชลบุรี Chonburi		3	2	5
6. ตราด Trad		1	-	1
7. นนทบุรี Nonthaburi		8	3	11
8. นครปฐม Nakhon Pathom		-	2	2
9. ปทุมธานี Pathum Thani		26	9	35
10. ประจวบคีรีขันธ์ Prachuab Kirikhan		1	2	3
11. ปราจีนบุรี Prachinburi		-	1	1
12. เพชรบุรี Petchaburi		1	-	1
13. พระนครศรีอยุธยา Pranakhonsriayutaya		2	-	2
14. ราชบุรี Ratchaburi		-	2	2
15. ระยอง Rayong		1	-	1
16.สมุทรปราการ Samut Prakan		39	37	76
17. สมุทรสาคร Samut Sakon		10	5	15
18. สิงห์บุรี Singburi		-	1	1
19. สระบุรี Saraburi		-	2	2
รวม Total		175	152	327

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
ภาคเหนือ Northern Region				
1. นครสวรรค์ Nakhon Savan		1	1	2
2. ลำปาง Lampang		4	-	4
รวม Total		5	1	6
ภาคใต้ Southern Region				
1. กระบี่ Krabi		1	-	1
2. ชุมพร Chumphon		2	1	3
3. ปัตตานี Pattani		2	1	3
4.ภูเก็ต Phuket		1	-	1
8. สงขลา Songkla		3	-	3
รวม Total		9	2	11

ภาค/จังหวัด Region/Province	ปีปฏิทิน Calendar year		
	2531 1988	2532 1989	รวม Total
	ภาคตะวันออกเฉียงเหนือ Northeastern Region		
1. กาฬสินธุ์ Kalasin	-	1	1
2. นครราชสีมา Nakhon Ratchasima	2	-	2
3. บุรีรัมย์ Buri Rum	-	1	1
4. ยโสธร Yasothon	1	-	1
5. ร้อยเอ็ด Roi-Et	-	1	1
6. ศรีสะเกษ Srisaket	-	1	1
รวม Total	3	4	7
รวมทั้งสิ้น Grand total	192	159	351

ตารางที่ 24 แสดงจำนวนผู้จบการศึกษาระดับมัธยมศึกษาตอนต้น ปี 2531 - 2532 จำนวนตามที่ตั้งสถานประกอบการ  
 Table 24 Number of the graduated trainees in 1988 - 1989 by location of establishment

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
ภาคกลาง	Central Region	38	56	94
1. กรุงเทพฯ	Bangkok	1	2	3
2. กาญจนบุรี	Kanchanaburi	3	-	3
3. จันทบุรี	Chanthaburi	1	-	1
4. ฉะเชิงเทรา	Chachoengsao	5	2	7
5. สมุทร	Chonburi	2	3	5
6. นนทบุรี	Nonthaburi	1	-	1
7. นครปฐม	Nakhon Pathom	14	15	29
8. ปทุมธานี	Pathum Thani	-	2	2
9. ปะจามศรีวิชัย	Prachuab Kirikhan	-	3	3
10. ปราจีนบุรี	Prachinburi	1	1	2
11. เพชรบุรี	Petchaburi	1	1	2
12. เพชรบูรณ์	Pranakhonsriyutaya	-	1	1
13. รยอง	Rayong	-	1	1
14. ลพบุรี	Lopburi	-	1	1
15. สมุทรปราการ	Samut Prakan	23	19	42
16. สมุทรสาคร	Samut Sakon	8	3	11
17. สิงห์บุรี	Singburi	1	1	2
18. สุพรรณบุรี	Suphanburi	2	1	3
19. อ่างทอง	Angthong	-	1	1
รวม	Total	101	112	213

ภาค/จังหวัด Region/Province		ปีปฏิทิน Calendar year		
		2531 1988	2532 1989	รวม Total
ภาคเหนือ Northern Region				
1. เชียงใหม่ Chiang Mai	1	-	1	
2. เชียงราย Chiang Rai	-	4	4	
3. นครสวรรค์ Nakhon Savan	2	2	4	
4. นนทบุรี Payao	1	2	3	
5. นนทบุรี Pichit	1	1	2	
6. พิษณุโลก Pitsanulok	-	2	2	
7. เพชรบูรณ์ Petchaboon	-	3	3	
8. ลำปาง Lampang	2	1	3	
9. สุโขทัย Sukhothai	1	-	1	
10. อุตรดิตถ์ Uttaradit	1	-	1	
รวม Total	9	15	24	
ภาคใต้ Southern Region				
1. กระบี่ Krabi	1	-	1	
2. ชุมพร Chumphon	1	3	4	
3. นครศรีธรรมราช Nakhonsri Thammarat	-	1	1	
4. ปัตตานี Pattani	-	1	1	
5. สุราษฎร์ธานี Surathani	1	1	2	
6. สงขลา Songkla	2	-	2	
รวม Total	5	6	11	

ภาค/จังหวัด Region/Province	ปีปฏิทิน Calendar year		
	2531 1988	2532 1989	รวม Total
	ภาคตะวันออกเฉียงเหนือ Northeastern Region		
1. กาฬสินธุ์ Kalasin	-	2	2
2. ขอนแก่น Khon Kaen	2	2	4
3. ชัยภูมิ Chaiyaphum	-	2	2
4. นครพนม Nakhon Phanom	1	1	2
5. นครราชสีมา Nakhon Ratchasima	-	4	4
6. บุรีรัมย์ Buri Rum	2	3	5
7. มหาสารคาม Mahasarakham	1	-	1
8. ศรีสะเกษ Srisaket	2	-	2
9. สกลนคร Sakon Nakhon	1	3	4
10. สุรินทร์ Surin	5	3	8
11. อุบลราชธานี Udon Thani	1	-	1
12. อุบลราชธานี Udon Ratchathani	-	2	2
รวม Total	17	24	41
รวมทั้งสิ้น Grand total	132	157	289

Figure 2 : The achievement of IRC  
in 1985 - 1989 by activities

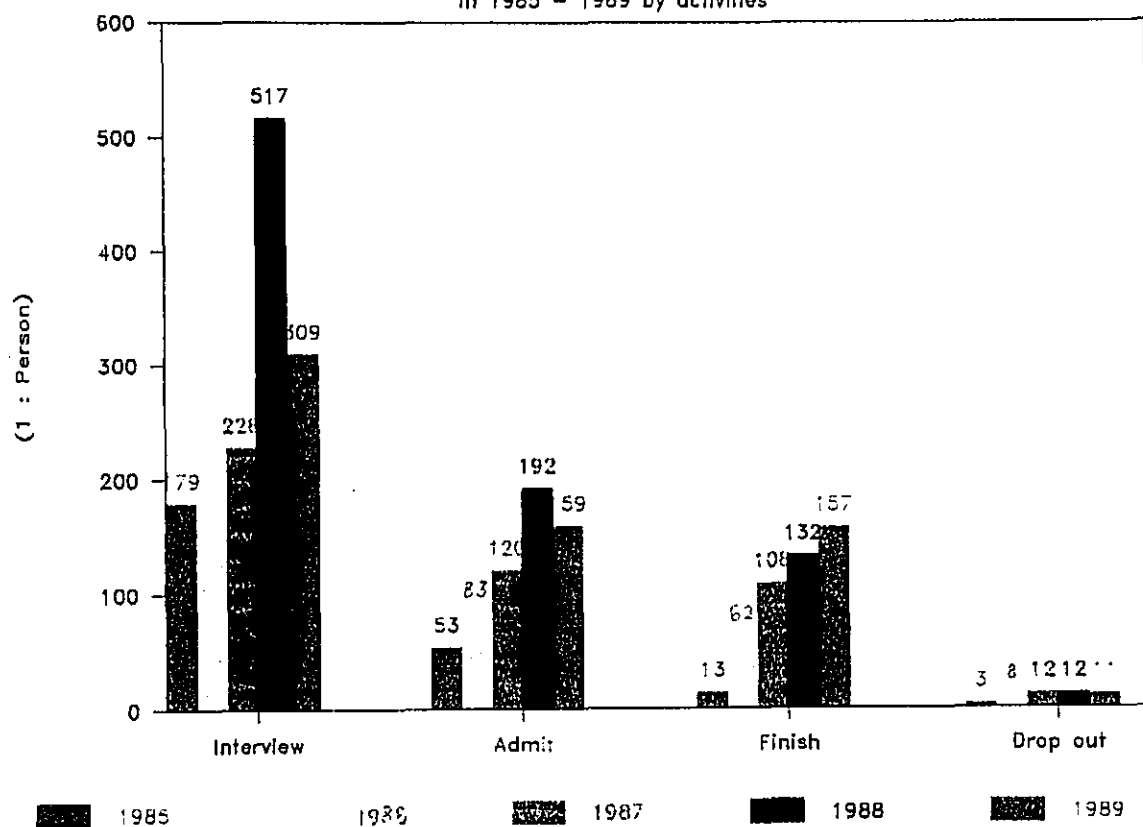






Figure 3 : Number of IRC trainees  
in 1988 - 1989 by age

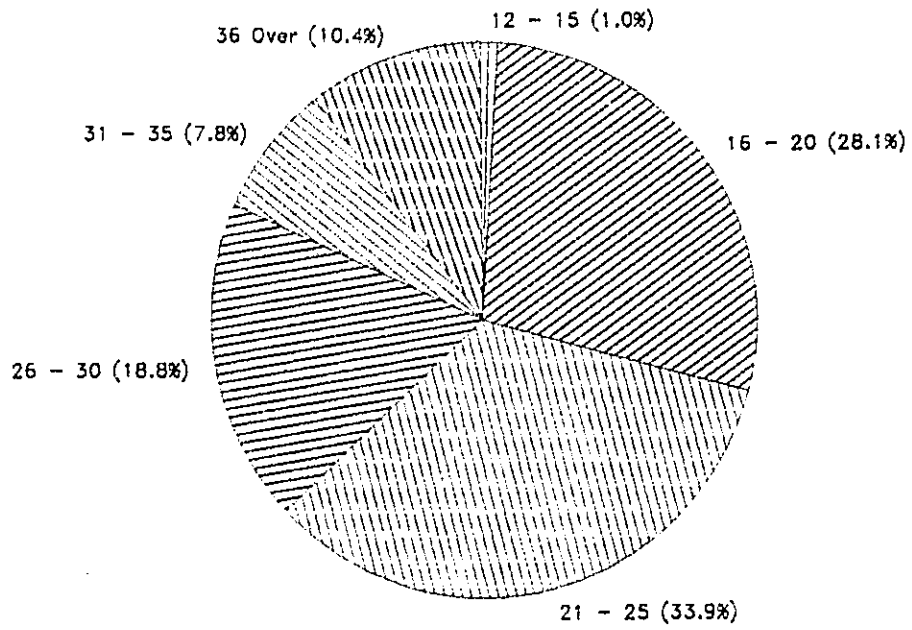
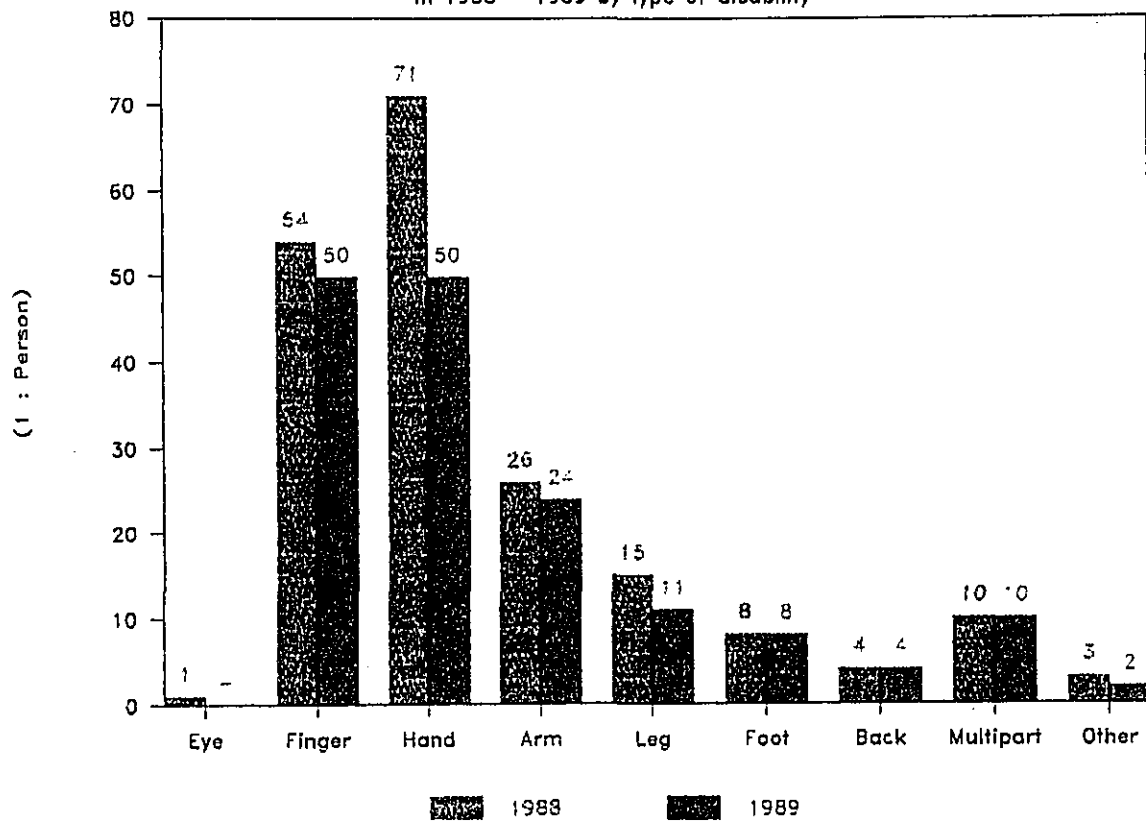




Figure 4 : Number of trainees  
in 1988 - 1989 by type of disability





คณะผู้จัดทำ  
Working Group

ลำดับที่ No.	ชื่อ - สกุล Name	ตำแหน่ง Position	หมายเหตุ Remark
1	นางสาวดวงกมล ช่างเรียน Ms.Doungkamol Changrien	หัวหน้าศูนย์ฟื้นฟูสมรรถภาพคนงาน Director of IRC	หัวหน้าคณะผู้จัดทำ Leader
2	นางสุชาดา ชีเจวิญ Mrs.Suchada Cheecharoen	นักสังคมสงเคราะห์ 5 Social Worker	ผู้จัดทำ Member
3	นายบรรดิษฐ์ คชภักดิ์ Mr.Bandit Kotchapakdee	เจ้าหน้าที่งานโสตศึกษา 3 Audio Visual Officer	ผู้จัดทำ Member
4	นางสาวรุ่งนภา ทองเมือง Ms.Roongnapa Thongmuang	เจ้าหน้าที่งานสถิติ 3 Statistician	ผู้จัดทำ Member
5	นายพรชัย ควประเสริฐ Mr.Pornchai Kuanprasert	เจ้าหน้าที่งานธุรการโครงการ General Administration Officer	ผู้จัดทำ Member
6	นางสาวจิรฉัตร พรหมวิรัตน์ Ms.Jeeranun Promvirut	เลขานุการผู้เชี่ยวชาญญี่ปุ่น Japanese Expert Secretary	ผู้จัดทำ Member

\*\*\*\*\*



JICA